

資料 1

地区・郡市中教研

研究活動の概要

○上越地区

- ・ 上越
- ・ 柏崎・刈羽
- ・ 糸魚川
- ・ 妙高

○中越地区

- ・ 長岡・三島
- ・ 三条
- ・ 小千谷
- ・ 加茂・南蒲
- ・ 十日町・中魚
- ・ 見附
- ・ 魚沼
- ・ 南魚沼・南魚
- ・ 燕・西蒲

○新潟地区

- ・ 新潟

○下越地区

- ・ 新発田
- ・ 村上・岩船
- ・ 五泉・東蒲
- ・ 阿賀野・胎内・北蒲
- ・ 佐渡

1 地区中教研の活動

(1) 第1回上越地区都市会長会 4月20日(火) 会場：上越市立大潟町中学校

- ①上越地区中教研組織の確認(正副会長、事務局等)
- ②令和3年度事業計画、指定研究運営等についての検討

(2) 上越地区運営推進委員会 兼 第2回上越地区都市会長会 12月7日(火) 会場：学びの交流館
 <参加校>・令和元年度～3年度指定(会場校)

社会(糸魚川東中)、理科(直江津中) 英語(瑞穂中)、保体(柏崎三中)、進路指導(大島中)
 ・令和3年度～4年度指定(会場校)

国語(柏崎二中)、数学(妙高中)、技家(鏡が沖中)
 道徳(板倉中)、特別活動(牧中)

①指定2年次研究の実施報告と1年次研究の経過報告

②ファシリテーション「研究推進や運営に関する成果と課題について」(右の写真手前。1・2年次混合で)

※ 並行して、都市会長会では各都市の事業について
 の中間報告と諸問題に係る情報交換(右の写真奥)

③シェアリングと各都市会長からの指導・助言



2 県中教研指定研究等事業による研究会・・・上越市、糸魚川市はオンライン、柏崎市・刈羽郡は対面で

教科領域	研究主題	開催期日	会場校(参加人数)
社会	根拠を基に深め合う生徒	11月2日(火)	糸魚川東中(29名)
理科	見通しと振り返りを大切にした思考力・判断力を高める指導の工夫	11月17日(水)	直江津中(20名)
英語	自分の考えや思いを伝える生徒の育成 ～4技能5領域のバランスが取れた言語活動の実践～	11月24日(水)	瑞穂中(27名)
保健体育	ファシリテーションを通して、主体的に活動する生徒の育成	11月19日(金)	柏崎三中(33名)
進路指導	自分のよさを発揮し、「豊かに生きる力」を育む 進路指導 ～キャリア・パスポートの活用を通して～	9月17日(金)	大島中(14名)

3 地区中教研の成果と課題, 次年度の取組(方向性)・・・上記1(2)の運営推進委員会で挙げた意見<成果>

- 集合・対面による従来の研究会のよさはあるが、新型コロナ禍における研究会の一つの在り方として、オンラインによるリモートでの開催実績を残すことができた意義は大きい。(上越市、糸魚川市から)
- 研究を通し、ファシリテーションを授業の中で年間通して継続的に行うことができた。
- 生徒が話し合いたくなる課題設定を行うことができた。

<課題>

- △話し合いのツール開発やファシリテーターの育成が必要である。iPadの活用が個人作業になっている。
- △学校ごとに実態が違う中、共通の取組を進めることに難しさがある。

<次年度の取組(方向性)>

- iPadを使った学び合い・話し合いやファシリテーターのトレーニングを全校体制で行っていききたい。
- 研究推進を通してまとめた指導案を実践する際は、自校(学級)の実態を踏まえてアレンジする。
- 研究推進委員を異校種の教員から協力いただくことも考えてよいのではないかと。

深い学びに至る「学び合う授業づくり」の推進

上越市中学校教育研究会 会長 野池 康一

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

新学習指導要領の全面実施となる初年度であることを踏まえ、「見方・考え方」に着目し、深い学びに至る学び合う授業によって生徒に確かな資質・能力を育むことを課題とする。

<取組>

- (1) 指定研究の推進に当たり、研究推進委員会を組織し、計画的に研究を推進する。
- (2) 5教科では研究推進委員会が設定した研究主題に基づき、市内各中学校の教諭が実践を積み重ねる。

2 研究活動の概要

(1) 指定研究の推進

○指定研究2年次・・・進路指導、理科 ○指定研究1年次・・・道徳、特別活動

<2年次発表の概要>・・・①②とも、オンラインにより実施

① 「進路指導」研究発表

会場	上越市立大島中学校	開催日	令和3年9月17日(金)	参加人数	14名
指導者	上越市教育委員会 指導主事 曾根原 至 様				
研究主題	自分のよさを発揮し、「豊かに生きる力」を育む進路指導 ～キャリア・パスポートの活用を通して～				
授業公開	全校生徒「体育祭での私の成長～キャリア・パスポートを活用して」 授業者 樺澤 恒平 教諭				

② 「理科」研究発表

会場	上越市立直江津中学校	開催日	令和3年11月17日(水)	参加人数	20名
指導者	上越教育事務所 学校支援第2課長 藤本 高雄 様 上越市立教育センター 指導主事 品田やよい 様				
研究主題	見通しと振り返りを大切にした思考力・判断力を高める指導の工夫				
授業公開	1年「身の回りの物質」 授業者 佐藤 智宏 教諭				

(2) 一斉研修の実施

11月5日(金)に実施予定であったが、新型コロナ禍での諸般の事情に鑑み、中止となった。

3 成果と課題、次年度の取組(方向性)・・・オンラインによる実施について

<成果と課題>

○公開授業、研究発表をすべてオンラインで行うことができたため、校内の教育活動に関わる生徒・職員への影響が少なかった。

○公開授業を事前の収録にしたため、生徒の欠席や感染状況に応じて、日程の変更ができた。

△収録による授業視聴では、生徒の姿や会話、活動の様子をつぶさに見ることができない。

<次年度の取組(方向性)>

- ・Zoomの機能を更に活用できれば、協議会がより活発になると考えられる。
- ・動画の公開期間を考慮すると、2次案内をより早く送付する必要がある。

学び合いを通して主体的に追究する生徒の育成

柏崎市刈羽郡中学校教育研究会 会長 庭山 敦
同 副会長 山田 智

1 今年度の課題と取組

＜今年度の課題＞端末機器等を活かした学び合いを創造し、生徒が主体的に学ぶ授業づくりの充実。

＜取組＞各研究部で、ものの見方や考え方を働かせ、対話的な学びを通してその多様さに気づき、主体的に追究する授業づくりの研修を充実させる。

2 研究活動の概要

(1) 教育文化講演会

- ア 会場・期日・参加者数 各校を会場とするリモート講演会 8月20日(月) 約700人
イ 講師 はまぎんこども宇宙科学館館長 JAXA教授 的川 泰宣 様
ウ 演題 「宇宙の神秘と未来への希望 ～はやぶさ2プロジェクトからのメッセージ～」
エ 内容 プロジェクト発足のエピソードから実現までの困難に立ち向かう強い心をご講演いただいた。逆境への挑戦の在り方、多様な人材の有用な活かし方など、示唆の多い講話を聴くことができた。

(2) 「保健体育」学習研究発表会(2年次)

- ア 会場・期日・参加者数 柏崎市立第三中学校 11月19日(金) 33人
イ 指導者 柏崎市教育委員会 指導主事 木村 貴之 様
柏崎市立荒浜小学校 校長 中村 正人 様
ウ 研究主題 「ファシリテーションを通して、主体的に活動する生徒の育成」
エ 授業公開 第3学年 保健体育 「器械運動(シンクロマット)」
授業者 教諭 佐藤 光介
オ 研究協議 主題に迫り、音楽に合わせた集団演技の構成が個人技能の向上にもつながるという授業を提案した。協議会では、KPTによるグループ協議を行い、音楽による集団演技の有効性や課題について活発な意見交換が行われた。

(3) 「英語」学習研究事業(2年次)

- ア 会場・期日・参加者数 柏崎市立瑞穂中学校 11月24日(水) 26人
イ 指導者 中越教育事務所学校支援第2課 指導主事 川田 昌宏 様
ウ 研究主題 「自分の考えや思いを伝える生徒の育成」
～4技能5領域のバランスが取れた言語活動の実践～
エ 授業公開 第1学年 英語 「Program 7 Research on Australia」
授業者 教諭 藤巻 洋生
オ 研究協議 学習指導要領の改訂を受け、「学習・指導・評価の一体化」を軸に、「教科書と平行な教材の開発と活用」を進め、「5領域のバランスの取れた言語活動」を通して、研究主題の具現化に向けて研究を進めることができた。

(4) 「技術・家庭」学習研究事業(1年次)

- ア 会場・期日・参加者数 柏崎市立鏡が沖中学校 11月18日(木)
イ 指導者 上越教育大学 教授 東原 貴志 様
ウ 研究主題 「持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し想像する生徒の育成
～よりよい生活の実現に向かう力の育成～」

- エ 授業公開 第3学年 技術分野「誰もが快適に暮らせるスマートホームを考えよう」
授業者 教諭 前澤 侑
- 第3学年 家庭分野「リフォームで家族が安心して住める住空間をゲットしよう」
授業者 教諭 長谷川智美
- オ 研究協議 家庭分野の「家族」、技術分野の「計測制御」の3つがうまく連携した単元構成となり、他者から自分の考えを評価してもらう場面が自己有用感の醸成につながった。来年度は2学年でこの主題を行うため指導計画の見直しが課題としてあがった。

(5) 「国語」学習研究事業（1年次）

- ア 会場・期日・参加者数 柏崎市立第二中学校 11月22日（月）
- イ 指導者 上越教育大学 教授 佐藤多佳子 様
- ウ 研究主題 「根拠と意見のつながりを適切に判断し、自分の考えを表現する活動を通して新たな価値に気付く生徒の育成」
- エ 授業公開 第1学年 国語 「「不便」の価値を見つめ直す」
授業者 教諭 赤沼 祐子
- オ 研究協議 身近な「不便益」を見付け、スピーチで伝えるための構成づくりを授業で行った。協議会では、「説得力のある話の構成を考えることができていたか」「意見と根拠のつながりを適切に判断していたか」について協議し、「意見と根拠のつながり」の重要性を再確認できた。

(6) 柏崎市立教育センターとの合同研修講座

(7) 研究成果の刊行 「柏崎刈羽の学校教育」第17集

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- ・学習対象を自分事としてとらえ、主体的に対話したり表現したりする生徒の姿を具現化する授業実践を積み重ねることができた。

<課題>

- ・各校の学び合いの実践の積み重ねと、深い学びとなる授業づくりの必要性。

<次年度の取組>

- ・一人一台端末を活かした効果的な手立ての構築と、主体的・対話的で深い学びに向けた更なる授業改善。

生徒の主体性を伸ばし、生き生きと学ぶ学習指導を求めて

糸魚川市中学校教育研究会 会長 小玉 裕

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

糸魚川市中教研は、市内4中学校の教職員で組織している。当市が掲げる「市子ども一貫教育」の実現に向け、より小学校との連携を深め、広い視野で研修を進めていく必要がある。

<取組>

当研究会の活動を糸魚川市教育研究会の活動と合わせて行うことで、小・中学校間での学びの連続性や系統性を意識した授業研究等を行い、教師個々の指導力の向上を図る。

2 研究活動の概要

糸魚川市では、糸魚川市教育研究会（以下市教研）として、小学校と中学校、特別支援学校と一緒に研修を行っている。この市教研を活用し県小研と中教研をタイアップすることで、前述の「市子ども一貫教育」推進の一助を担っている。例年5月に各部での研究テーマや内容を検討し、11月の市内一斉研修会に向け準備を進めている。しかし、今年度も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大のため、各部の活動の中止または変更を余儀なくされた。

活動の一例として、保健体育部では、「小中学校の体育指導技術をつなぐ授業の在り方を考える研修」を研究テーマとし、中学1年生の「マット運動」の授業公開を予定していたがやむなく中止した。授業公開こそできなかったが、小・中学校の先生方が集まり、中学校のマット運動の指導案を検討した。このような状況の中にもかかわらず、小・中学校の体育指導技術をつなぐ授業について意見交換ができたことは、大きな成果であった。

また、保健部ではZoomを使った研修、特別活動では、国立妙高青少年自然の家職員から特別活動の動向の講義及び演習、そして社会では、11月2日(火)に、「根拠を基に、学びを深め合う生徒」を研究主題とし、指定研究発表を行った。他地区の中学校の先生方と共に、市教研社会科部の小学校の先生方もリモート参加し、多人数での研修等が制限されるコロナ禍であっても充実した研修を行うことができた。

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- ・研究推進を通して、学び合う授業や教師の学び合いが確実に浸透し、授業改善につながった。
- ・リモートでの打合せ、授業公開、協議会の実施など、これまでの状況と異なる中での活動推進体制を構築することができた。

<課題>

- ・今年度も新型コロナウイルスの感染拡大のため、多くの活動が中止となった。また、研究テーマ等も定めることができなかった部会も多かった。今後は、リモート会議等の最大限活用など、不測の事態にも対応できる体制づくりの確立が急務と考える。

<次年度の取組（方向性）>

- ・上記の課題を踏まえ、研究テーマに迫る「学び合う」教師集団や授業を実現するための取組を推進するとともに、教科・領域ごとに研究テーマを設定し、小中合同で授業改善に向けた研修の一層の充実を図る。

深い学びの創造と読解力の育成

妙高市中学校教育研究会 会長 宮川 高広

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

令和元年度は、「『学び合う授業』の創造」をテーマとして研究活動を行ってきた。新学習指導要領の完全実施を踏まえ、妙高市は令和2年度から「深い学び」の土台として「読解力の育成」を学校教育の重点に位置付けて研修を行い、教員の指導力向上に努めている。また、妙高中学校が県中教研の数学の研究指定を受け、1年次の研究が始まった。

<取組>

主体的、対話的で深い学びの創造に向けて、学び合う授業の視点だけでなく、「読解力」の6つの視点（①係り受け解析・②照応解決・③同義文判定・④イメージ同定・⑤具体例同定・⑥推論）を意識した授業を公開し、校内研修だけでなく妙高市教育研究会での研修を通して指導力を高めていく。また、妙高中学校における数学の指定研究（1年次）の組織造りを行うとともに、目指す姿を明確にして計画的に進めていく。

2 研究活動の概要

(1) 妙高市教育研修会

第1回（4月20日）

各教科における研究主題及び研修計画の立案

第2回（8月20日）

① 全体研修（講演会）

演題「読解力の視点を意識した授業」

講師 鏑木良夫 様（板橋区読み解く力推進委員）

② 教科別研修 実践例：保健体育部会（講演会）

演題「新学習指導要領における実践上の課題～体育授業における読解力とは～」

第3回（11月10日）教科別研修 実践例：保健体育部会

① 実技講習

突破ゲーム（タグラグビー風）の授業場面における深い学びと「読解力」

② レポート交流

読解力の育成を意識した日頃の取組をレポートにまとめ、小グループで各自の実践を紹介し合った。

(2) 中教研指定研究（数学）

第1回研究推進委員会（6月23日）

- ・研究主題の決定 「生徒が主体的に学び合う課題設定と授業展開の工夫～課題から数理としての本質を見いだす数学的な読解力を鍛えるために～」
- ・深い学びの姿及び深い学びを実現するためポイントについての協議

第2回研究推進委員会（7月21日）

- ・妙高中学校の目指す生徒像の確認

- ・公開予定単元（比例反比例）における深い学びにつながる課題のイメージを協議
- 第3回研究推進委員会（8月23日）
- ・比例反比例の単元における深い学びの課題設定
- 第4回研究推進委員会（9月22日）
- ・公開授業の構想について協議
- 第5回研究推進委員会（10月6日）
- ・指導案検討
- 第6回研究推進委員会（10月27日）
- ・1年次授業公開と研究協議会
- 第7回研究推進委員会（11月10日）
- ・研究の成果と課題についての協議

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

（1） 妙高市教育研究会

市内中学校の3校の内2校は小規模校（各教科1人）であり、小規模校においては、各教科における読解力の捉え方が独りよがりになり易いが、読解力をテーマとした研修を重ねたことにより、各教科における読解力について、市レベルで共通理解を図ることができた。

（2） 中教研指定研究（数学）

7回の研究推進委員会を通して、基本的な知識の定着や技能を身に付けた有能感を高めるためには、深い学びを軸とした授業展開が大切であること、そのためには、数学を通して身に付けたい力を明確にして数学の本質に迫る課題の設定が大切であることを確認した。また、iPadやGeoGebraを活用することで、仲間の考えを共有したり、グラフを操作して視覚的に把握したりすることで、考えがより深まることを確認した。

<課題>

（1） 妙高市教育研究会

この2年間、新型コロナウイルス感染対策の視点から他校教員が集う授業公開及び協議会の機会が極端になくなり、自校での校内研修で自問自答しながら研鑽を重ねざるを得ない状況下にあった。

（2） 中教研指定研究（数学）

1年次の成果に甘んずることなく、より深い学びにつながる課題の開発と授業展開について、研究推進委員一人一人が授業者の意識をもって研究を続けていく必要がある。

<次年度の取組（方向性）>

妙高市教育委員会が引き続き読解力の育成に力を入れていくことや数学の研究指定の2年次発表を控えていることから、今年度の研究をテーマや内容については踏襲する。一方、録画やオンラインを活用し、授業を見て協議し、教員にとって深い学びとなる研修方法を講じていく。

1 地区中教研の活動

(1) 第1回郡市会長会 4月20日(火) アトリウム長岡

- ①令和3年度中越地区中学校教育研究会 正副会長の選出について
- ②令和3年度研究指定について(会場校・開催期日・会の持ち方の確認)
- ③令和4年度以降の研究指定について(指定郡市・会場校の確認)
- ④情報交換(令和3年度郡市中教研活動について、地区運営推進委員会の持ち方等)

(2) 第2回郡市会長会 12月3日(金) アトリウム長岡

- ①令和元・3年度 指定研究の成果と課題について
- ②令和4年度以降の研究指定について
- ③情報交換(令和3年度の郡市中教研活動状況等)

(3) 令和3年度中越地区運営推進委員会 12月3日(金) アトリウム長岡

令和3年度指定の推進委員と令和4年度の推進委員・会場校責任者のグループで、郡市会長がアドバイザーとなり、令和4年度の取組の方向を協議した。フレームワーク「KPT」を用い、現在の進捗状況や今後の課題を洗い出し、具体的に何に取り組むのかを明らかにしていった。令和3年度指定の推進委員が経験を基に意見を述べたり、郡市会長がアドバイスをしたりすることで、以下のように、内容の濃い協議を行うことができた。

【議題1】研究推進に関わって、次の点について知見や目指す方向性を明らかにする。

- ①各教科領域で見られた「深い学び」といえる「学び合い」の具体
 - ※「深い学び」に至らなかった「学び合い」の具体
 - ②「学び合い」を「深い学び」化させた要因
 - ※「深い学び」に至らせるために必要だったことは
 - ③「学び合い」をさらに「深い学び」としていくための方策
- それぞれの協議では、次のような知見が出された。(一部抜粋)

- ・各種行事や他教科との連携により教科横断的な取組にすることが有効。
- ・「ずれ」を顕在化させることによって作り上げた学習課題が生徒の追究意欲につながっていく。
- ・当事者意識をもって追究できる工夫をすることが必要。
- ・「見方・考え方を働かせる」ことを意識し、単元を通して示した視点を軸にして学ばせることが必要。
- ・既習の学習に置き換えているだけでは深まらない。既習を使いながら学びをつなげていくことが大切。
- ・普段からの誰とでも会話できる環境づくりが大切。その上で、話し合いのルールを段階的に身に付けさせる。

【議題2】運営方法に関わって、次の3点を明らかにする。

- ①R4年度のおおよその見通し。
 - ②研究推進委員会の効果的なもち方、研究発表会当日の充実した協議会のもち方について。
 - ③研究2年目の運営に関わっての疑問、課題、今後の不安(予算執行、会場の準備、当日運営等)。
- それぞれの協議では、次のような知見が出された。(一部抜粋)

- ・研究の概要説明時に協議会のもち方を説明し、授業を見る視点を明確にする。
- ・グループ協議では研推を活用(グループのFTとして)すると、協議の方向性がぶれない。
- ・オンラインでの協議会は、ブレイクアウトルームを活用すると、参加者の意見を吸い上げやすい。
- ・オンラインでの授業公開の場合、生徒の授業の様子をいかに示せるかが難しい。どの場面を見てもらうか、見る側の視点を考えながら撮影をする必要がある。
- ・動画を公開する際、テロップなどを有効に活用するとよい。
- ・今年度、県全体で開催された研究会で得られた知見を全体で共有し、次年度に生かしていく。

2 県中教研指定研究等事業による研究会

教科・領域	郡 市	学校名	期 日	開催形式	参加者数(他郡市)	備考
社会	十日町・中魚	津南中学校	11月2日(火)	限定参集	52(15)	2学年
理科	加茂・南蒲	加茂中学校	11月9日(火)	限定参集・オンライン	48(28)	2学年
英語	長岡・三島	関原中学校	11月26日(金)	限定参集・オンライン	41(28)	3学年
保健体育	見附	西中学校	11月10日(水)	限定参集	27(13)	2学年
進路指導	長岡・三島	大島中学校	10月29日(金)	オンライン	21(9)	3学年

3 地区中教研の成果と課題、次年度の取組(方向性)

<成果>

- ・感染禍による制約がある中で、各会場では様々な工夫を凝らして、研究授業や協議会を実施した。
- ・協議会では、対面による小グループでのファシリテーション、オンラインによるブレイクアウトルームの活用など、様々な工夫により活発な議論が行われた。
- ・研究発表会の公開授業では、生徒たちが教科領域の見方・考え方を働かせながら、真剣に課題に正対し、他者と考えを交流する姿が見られた。
- ・各教科の成果については次のとおり。

社会：自分の問題として捉えやすい学習課題の設定や単元構成によって、追究意欲をもって学習に取り組む姿や生徒の学びが持続する姿が見られた。

理科：単元構成の工夫は、生徒が動物と植物を比較しながら、生き生きと学び合っている様子があった。また、動物から植物の流れは、思考のつながりやすさだけでなく、学習意欲の向上にも効果があった。

英語：即興力の育成に焦点を絞り、そのための三つの手だてを具体的に提示・説明することができた。

①帯活動の活用 ②Interactive Talk(双方向会話)の導入 ③機能毎にelaboration(精緻化)した表現集の活用

保体：研究方法である3点の取組(動きのポイントやコツの共有、ファシリテーションを活用した課題発見、課題解決のための練習計画シート作成、実践)を実践し、その有効性を確認することができた。

進路：3年間の取組から自分自身の「キャリアパスポート」にまとめた内容を交流し合い、互いの成長を認め合った。また、未来に向かって、学習での気づきをどのように自分に生かしていきたいのかを考えることができた。

<課題>

- ・オンラインでの授業公開は全体の様子や雰囲気伝わりづらいため、対面での公開が望ましい。しかし、その中でも今年度実施した各地区の良さを全県で共有していくことが大切である。
- ・研究内容や成果を広く普及する方策を考え、実践していく必要がある。
- ・資質・能力を確実に育むために、「深い学びにいたる学び合う授業」において、各教科・領域のどのような「見方・考え方」を設定し、いかに働かせるのかという視点から授業提案をする必要がある。
- ・研究推進委員会で、活発な議論は今後も進めていくが、指導案・資料等を精選化することで、授業者の負担を削減し、持続可能な指定研究事業にする。

<次年度の取組(方向性)>

- ・上記の課題に正対し、「深い学びにいたる学び合う」授業や協議会の実現を目指していく。

「深い学びにいたる学び合う授業」の実現に向けて

長岡市・三島郡中学校教育研究会 会長 宮 宏之

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

- 資質・能力を確実に育むために、教科領域の見方・考え方を働かせる授業の創造を目指した研修を推進する。
- 「深い学びにいたる学び合う授業」を目指した授業実践を推進する。

<取 組>

- 各教科・領域で固有の見方・考え方に着目して研究主題を設定し、小学校と連携しながら授業研究会、講習・講演会等を実施する。

2 研究活動の概要

教科・領域	研 究 主 題 (主な活動内容)
国 語	言葉の力を追究し、自分の読みをつくる授業 (講演会：2月 授業研究会：10月 川崎小)
社 会	自ら考え、意欲的に追究する子どもが育つ社会科授業の在り方 (授業研究会：11月 青葉台中)
数 学	深い学びを実現する指導の工夫 ～タブレット端末等を用い、数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して～ (授業研究会：11月 寺泊中 講演会：11月)
理 科	自然事象を科学的に捉え、探究する子どもの育成 ～理科の「見方・考え方」を働かせる授業づくり～ (実験体験会：8月 新町小・堤岡中)
音 楽	思いをもって表現する子ども (講演会：7月 授業研究会：10月 寺泊中)
美 術	思いを実現しようとする子どもの育成 (鑑賞研修会：11月 近代美術館)
保健体育	【体操・器械】 楽しさを味わうことのできる体づくり、器械運動の学習の工夫 【表現・ダンス】 楽しさを味わうことができる表現・ダンスの支援 【ボール】 子どもが楽しさを味わう教師の支援の在り方 【陸上】 いきいきと陸上運動に取り組むことを支援する手立て (実技研修会 陸上競技：7月 器械運動：10月 ボール運動：11月 表現・ダンス：11月)
技術・ 家庭	持続可能な社会の実現に向けて、生活を工夫し創造する児童・生徒の育成 (授業研究会：11月：北中(技術) 10月：南中(家庭))
英 語	学び合う授業の創造 ～学ぶ意欲を高め、確かな学力を身に付ける生徒の育成を目指して～ (授業研究会：11月 栃尾南小 11月 関原中...県中教研指定研究発表会)
道 徳	「考え、議論する道徳」への授業改善 (授業研究会：10月 新町小 11月 北中)
特別活動	自主的、実践的に集団活動に取り組み、課題解決を通してよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる特別活動の工夫 (講演会：6月 研修会：11月)
進路指導 キャリア教育	自らの生き方を切り拓いていく生徒・児童の育成を目指して (授業研究会：10月 大島中...県中教研指定研究発表会)

総 合	探究的な学習をうながす指導の工夫 (講演会：12月 授業研究会：11月 小国中)
学校保健	現代的健康課題を抱える児童生徒への支援と養護教諭の役割 ～校種別グループ研修を通して学びを深め、児童生徒への効果的な支援につなげる～ (研修会：6月 8月 2月)

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- 感染禍による制約がある中で、各教科・領域ごとに様々な工夫をして、研究授業や協議会、講演会などを実施することができた。
- 小学校と中学校が合同で研修を行い授業スキルを高めたり、資質・能力を育む授業の在り方について提案する研究授業が行われたりした。

<課題>

- 市内全中学校の研究推進に関わる教員を対象とした研修を行い、「深い学びにいたる学び合う授業」を実現するための校内研修の在り方について検討すること。
- 研究授業において、各教科領域における「見方・考え方」を働かせて学び合う授業の具体を提案し、その成果を各校の授業実践に生かせるようにしていくこと。
- 教師同士の「学び合い」が促進されるよう、研究授業の参観の視点を明確にすることや、協議会の持ち方の工夫を行うこと。
- 小中の連携（指導案作成、研究授業・協議会運営等）をさらに推進すること。

<次年度の取組（方向性）>

上記の課題を踏まえ、研究主任を対象とした研修会にて「学び合う」教師集団や授業を実現するための取組を推進するとともに、教科・領域ごとに研究テーマを設定し、小中合同で授業改善に向けた研修を継続する。

小中一貫教育の推進～小中教職員が共に学ぶ～

三条市中学校教育研究協議会 会長 土田 栄林

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

「三条市教研」として小中教職員が共に学ぶ場を立ち上げ4年目を迎える。三条市の推進する小中一貫教育を主体的にとらえ、9年間を見通した指導や小中連携等、新しい教育の動向を踏まえて積極的に共同研修を推進する。

<取組>

- ・小中一貫教育の洗練・深化に向けて、教職員一人一人が資質・指導力の向上に努め、三条市学校教育の目標を具現化する。
- ・新学習指導要領の各教科・領域の目的を理解し、県中教研の「授業改善ナビゲーション」や「授業情報誌 Class・学び合う授業」を活用しつつ、授業の質的改善を積極的に進める。
- ・9年間を見通した各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間等の自校プランを相互に情報交換し合い、自校プランの改善充実に努める。

2 研究活動の概要

(1) 活動の概要

- ・4月14日(火) 第1回審議委員会(規約・組織・事業計画・予算計画等の審議)
- ・5月6日(木) 第1回一斉研修会(部会ごとに開催、年間活動計画・各分担等の決定)
- ・5月～11月 部会研修 (部会ごとに設定、市教育センターの研修講座等の活用)
- ・11月4日(木) 第2回一斉研修会(授業公開・協議会等)
- ・3月上旬 研究成果の刊行(三条市教研実践記録集)
- ・3月25日(金) 市教研準備委員会(次年度に向けた組織づくり、事業計画、予算計画)

(2) 各部会の研究主題・主な研修内容

国語	相手の話を聴き、自分の考えを深め表現できる生徒の育成 ～受信・思考・発信を大切にしたい聴き合い学び合い活動を通して～ ① 講義「国語科の単元と学習評価」 ② 授業公開「少年の日の思い出」(中学1年)
社会	主体的に考え、対話的な関わりをもって社会的事象を追究する児童・生徒の育成 ① 講義 諸橋轍次記念館 館長 嘉代隆様よりご講話を頂く予定が会場の関係で中止。 ② 授業公開「明治の新しい国づくり」(小学6年)
算数・数学	算数・数学の指導のつながりについて ① 講義「算数・数学の授業づくりの視点」 ② 授業公開 学園ごとに授業を公開し、授業参観及び授業協議を行った。
理科	見方・考え方を働かせ、主体的に問題解決に取り組む児童・生徒の育成 ① 実技研修「液体窒素を使った実験」 ② 授業公開「電流と電圧」(中学2年)
音楽	表現領域における指導法の工夫～主体的・対話的に学ぶ授業の実践～ ① 講習会「やってみよう!音楽×Chromebookの授業づくり」 ② 授業公開「どのような歌い方をすると、自分たちの目指すハーモニーに近づけるか」

図工・美術	造形的な見方・考え方をもって表現に価値を見出す児童・生徒の育成 ① 指導案検討会 ② 「地域の伝統工芸（金属工芸）を活かして～アクセサリーをつくろう～」(中学3年)
家庭・技術家庭	新学習指導要領に示された新しい学力観が求める資質能力を育む小学校家庭及び中学校技術家庭の題材構想と授業のあり方 ① 講義「ウイルス禍と一人一台端末時代で家庭科授業はどう変わる？どう変える？」 ② 授業公開「大崎学園を紹介しよう」～デジタル作品の構想（情報の技術）～（8年）
体育・保健体育	主体的・対話的な深い学びを誘発する授業 ① 実技講習「マット運動」 ② 授業公開「器械運動～マット運動～」 * 授業者の体調不良により急遽中止
外国語・英語	主体的に考え、かかわり、豊かに表現する子どもの育成 ～学園での共通した取組を通して～ ① 協議会「デジタル教科書とICTの効果的な活用について」 ② 授業公開「ボランティアの自己PRカードを書こう。」
道徳	「考え、議論する道徳」の実現に向けて ① 講義「道徳科授業のあり方と評価について」 ② 授業公開「一日前に戻れるとしたら」（節度、礼節）」(中学1年)
生活科・総合学習	生活科・総合的な学習の時間に活用できる地域施設や題材の情報共有と活用の方策 ① 施設見学「三条市立大学」 ② 授業参観「三条嵐南学園 防災教育授業研修会（小中全学級）」、講演会
特別活動	望ましい人間関係につなぐ集会活動、生徒会活動、話し合い活動 ① 講義「望ましい人間関係につなぐ集会活動、生徒会活動、話し合い活動」 ② 実践報告「当事者意識をもたせる いじめ見逃しゼロスクール集会」
特別支援教育	① 講義『LDは僕のID』～字が読めないことで見えてくる風景～ ② 研修会：テーマ別（障害種、授業等）実践レポート研修
学校保健	自校の健康課題をふまえた保健教育への取り組み ① 講義「養護教諭が行う保健教育の進め方」 ② 実践報告と協議「指導実践の視聴と情報交換」
学校事務	学園経営に参画するための学校事務職員の資質向上 ① 研修会「地域連携について理解を深めよう～三条市のコミュニティスクールについて～」 ② 研修会「情報マネジメント研修」

3 成果と課題、次年度の方向性

<成果と課題>

「三条市教研」として全15研究部会を設定し、小中教職員が積極的に関わり合いながらそれぞれ充実した研修会を創り上げてきた。三条市でともに教職に就く仲間として、市が推進する小中一貫教育の洗練・深化を目指し、児童生徒の「確かな学力」「豊かな心・個性」「健やかな身体」を一層伸ばしていきたい。中教研会員にとっても、小中9年間の学び・育ちを意識することができ、自校及び自身の今後の研究に大きくプラスになったと考える。

ただし、三条市教研発足4年目ではあるが課題もある。各部会の研究推進委員長の選出、所属部員の人数差、授業公開の輪番制、駐車場の問題など、市教研の組織・運営面で今後検討を進める必要がある。

<次年度の方向性>

- ・ 県中教研指定研究：総合（2年次）、社会（1年次）と市教研のタイアップを十分に図っていく。
- ・ 今年度の組織面、運営面での反省を生かし、部会研修の在り方等について改善を図っていく。

小千谷市中学校教育研究会 研究活動の概要

「自ら考え 心豊かに たくましく生きる 小千谷の子ども」の育成

小千谷市中学校教育研究会 会 長 若林 靖人

同 副会長 森山 義紀

1 今年度の課題と取組

当市中教研は、中学校5校91名の会員をもって組織し、小学校8校・総合支援学校1校の教職員と共に小千谷市教育研究会を構成し、互いに連携を図りながら研修活動を推進している。生徒の学力向上を課題ととらえ、その実現のための授業改善を柱として研究活動を実践した。

2 研究活動の概要

(1) 市教育委員会との連携による研究推進・運営

- ①各研修委員会の代表を、小教研・中教研・市教委の三者で構成し、研究内容を企画・立案・運営している。
- ②実務研修として、保健・事務・栄養の各部会を、各学校の養護教諭・事務職員・学校栄養(教諭)職員及び市教委担当者をもって構成し、実務的な研修を推進している。
- ③市教育センター等と連携しながら教育活動支援事業を企画・立案・運営している。

(2) 夏季研修会の開催

- ①日時 令和3年8月18日(水) 13:00～14:55
- ②会場 小千谷市内各小中学校 (Zoomによる各勤務校での分散開催)
- ③内容 1 市教委による校務支援システムガイダンス
2 全体会 ① 会長あいさつ
② 講演会「小千谷市の歴史と文化を知る ～ 古代土器と中世の山城～」
講師 小千谷市教育委員会生涯学習課教育係主査 白井 雅明 様
③ 諸連絡

(3) 部会研修の内容

- ①国語部会：協議「学習評価の現状及び三観点の適切な評価の在り方について」
- ②社会部会：協議「学習評価の現状に基づく意見交換」
- ③数学部会：協議「授業実践の持ち寄りレポートの発表」
- ④理科部会：協議「三観点での学習評価への移行の進捗状況と現在抱える問題点」
- ⑤英語部会：協議「主体的、対話的で深い学び ～ 覚える英語から考えて使う英語へ～」
- ⑥音楽部会：協議「学習評価について」
- ⑦美術部会：事例研究「児童・生徒の作品にみる、よりよい美術指導法」
- ⑧保健体育部会：協議「新しい学習評価に関する自校の進捗状況と今後の評価体制のあり方」
- ⑨特別支援教育部会：協議「年間を見通した特別支援教育の取組についての検討及び情報交換」
- ⑩道徳部会：協議「道徳の教科化における実践力向上に向けて」

3 成果と課題、次年度の取組(方向性)

成果として、市教育研究会及び市教育委員会と密接な連携を図りながら、市の「おぢやっ子教育プラン」の実現に向けて研修を推進してきた。今年度は8月に市内で感染症が拡大し、夏季研修会で予定していた部会研修を実施しなかったため、会員間で随時連絡を取り合って協議等を行った。より深まりある研修を工夫することが課題である。年間を通して継続的に課題に取り組む時間を確保し、多くの部会で協議した評価に関する研修等、新しいニーズに応じた研修を検討していく。

「学び合う授業の創造」

加茂市南蒲原郡中学校教育研究会 会 長 佐藤 和彦

〃

副会長 栗林 操

1 今年度の課題と取組

〈今年の課題〉

- 学び合う授業づくりを推進するため、市教研・町教研と連携
- ICTの効果的活用による、児童・生徒の資質・能力の育成
- よい人間関係を構築する力の育成

〈取組〉

- 市教研や町教研との連携による研修活動（研修への積極的参加による授業改善）
- 指定研究「理科」（授業校：加茂中学校）の2年次研究
- 中越教育事務所の重点教科訪問における国語科研修の支援

2 研究活動の概要

- 教科・領域の取組

〈加茂市〉

教科・領域	研究主題
国 語	国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現 中越教育事務所重点教科訪問
社 会	ふるさと加茂への理解を深め、指導に生かすための実地研修
数 学	数学的に考える資質・能力を育成する授業の工夫～全国学調の分析を通して～
理 科	ICTを効果的に活用した理科授業の検討
総 合	総合的な学習の時間×コロナ禍における活動
音 楽	歌う意欲を高める歌唱指導の工夫
保健体育	健全な心身の発達を促すための健康教育の工夫
外 国 語	(1)中学校区における小中連携の推進 (2)小学校学国語の教科化及び中学校外国語の学力向上に向けた指導の改善
道 徳	道徳科の授業づくりと評価について
特別支援	子どもたちの将来を見据えた自立活動の実践
養護教諭	児童生徒が生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力を育成するための養護教諭の役割
事務職員	学校事務職員の専門性を生かした学校経営への積極的な参画
栄養職員	職員の充実と指導力の向上

* 研修会・講演会は、夏季休業中に集中開催（但し会場は分散）し、参加しやすい環境を整える。

* 全体研修（生徒指導）も夏季休業中に開催予定であったが、感染症拡大防止のため中止した。

〈田上町〉

教科・領域	研究主題
学力向上	小中連携による学力向上対策の推進
健康推進	児童生徒の心身の健康に関わる取組推進
ICT・プログラミング教育	ICT活用の推進 プログラミング教育プランの実践と検証
幼小連携	アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの実践・検討・修正
小中連携	小中連携社会性育成の推進・いじめ見逃しゼロスクール集会の計画 運営
UDL	学びのユニバーサルデザインの推進
事務	学校事務の効率化

*「田上の12カ年教育（田上の子どもに育む5つの能力と4つの行動力）」に基づく取組を行う。

○指定研究「理科」2年次の取組 *オンライン開催

- ・授業校 加茂中学校 授業者 今井友之 教諭
- ・研究推進責任者 若宮中学校 白井明日華 教諭
- ・指導者 中越教育事務所 羽鳥益実 指導主事
- ・研究主題 知識をつなぎ、思考・表現を深める生徒の育成～「既習事項の活用」を通して～

○中越教育事務所重点教科訪問（国語）

- ・授業校 7月 須田中 9月 葵中 10月 七谷中 加茂中 11月 田上中 12月 若宮中
- ・指導者 中越教育事務所 渡邊三津 指導主事
- ・研究主題 国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

〈成果〉

- コロナ禍のため、教職員が集まることは難しかったが、リモートなど実施方法を変えることで、研修を深めることができた。
- 外部講師・指導者を招聘して講演会等を開催することで、新学習指導要領の内容やICTの活用などで、より専門的な技術の習得につながった。
- 指定研究「理科」の研究推進体制を確立し、精力的に研究をやり遂げた。
- 教科部で公開授業・研究協議の回数を重ねることで、小中及び教科部の連携強化につながった。

〈課題〉

- 研修を効率的に実施するための工夫を行い、負担感の少ない研修体制を検討する。
- 各教科・領域で進めた研修内容を、今まで以上に還元できるように検討する。
- 一教科一担任の小規模校は、自校で研修を進めることが困難である。近隣校などと相互研修が可能な体制を検討する。

〈次年度の取組（方向性）〉

- 上記課題を踏まえ、「学び合う」教師集団や授業を実現するための取組を推進する。また、教科・領域ごとに研究テーマを見直し、授業改善をさらに推進する。

協働的な学びを活かした授業を通して

十日町市・中魚沼郡中学校教育研究会 会長 佐藤 栄策

〃

副会長 関谷 郷志

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

中学校学習指導要領の完全実施に合わせ、深い学びにつながる教科の特性を活かした協働的な学習について追究する。

<取組>

- 県中教研指定社会科（2年次）の発表に向けた取組
- 郡市教育振興会や市・町教育振興会や行政、中高連携事業との連携の促進
- 各事業を通じた、郡市内の小学校や高等学校、教育センター等との連携の在り方の模索

2 研究活動の概要

(1) 県中教研指定研究社会科（2年次） 郡市教育振興会連携事業として

- 日時等 11月2日（火） 津南町立津南中学校 授業者：伊佐 勝 教諭 52名参加
- 研究主題 「当事者意識をもって、課題解決を図る生徒の育成」
～協働的な学びを活かした授業を通して～
- 領域・単元 地理的分野「日本の諸地域（中部地方）、地域の在り方」
- 指導者 若林 靖人 様（小千谷市立小千谷中学校長）

(2) 授業力向上研修会

① 郡市中教研指定研究

- 「道徳」 11月11日（木）会場：十日町市立中条中学校（授業者：長部 博光 教諭）
公開授業・協議会
- 「理科」 12月10日（金）会場：県立津南中等教育学校（授業者：三山 裕基 教諭）
公開授業・協議会・指導（指導者：津南町立津南中学校長 関谷 郷志 様）
- 「数学」 コロナウイルス感染拡大のため開催中止

② 中高連携事業による研修会

- 「国語」 10月27日（水）会場：県立十日町総合高等学校
- 「保体」 11月25日（木）会場：県立十日町高等学校
- 「英語」 コロナウイルス感染拡大のため開催中止

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

新学習指導要領実施に伴い、評価を含めた研修に対する意識が高まっていた。また十日町市教育センター指導主事と連携しながら指定研究社会で大きな成果を挙げた。

<課題>

校内一人教科の学校も多いため、校外での研修は有意義である反面、郡市教振等との重なりも多いため、整理が必要な部分もある。

<次年度の取組（方向性）>

令和4・5年度指定研究「音楽科」1年次に向け、郡市中学校長会等と連携した支援を行い、テーマに迫る研究を進めると共に、各校の授業力向上に向けてフィードバックを行う。

確かな学力の向上を目指して

見附市中学校教育研究会 会長 深澤 正英

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

- 指定研究「保健体育」（授業校 西中学校）の研究組織体制を確立し、2年次研究を進める。
- 改訂学習指導要領実施に向けて作成してきた指導資料の活用を図り、授業力向上に向けた研修を各校で推進する。

<取組>

- 指定研究「保健体育」（授業校 西中学校）の2年次研究
- 見附市教育委員会、見附市教育センター、見附市校長会と連携した各校授業実践研修

2 研究活動の概要

(1) 指定研究「保健体育」2年次の取組

① 研究推進の組織

- ・ 授業校 西中学校 授業者 沼田 貴光 教諭
- ・ 研究推進責任者 見附中学校 相場 雅典 教諭
- ・ 指導者 長岡市立神田小学校 田邊 輝明 校長
長岡市立刈谷田中学校 北山 智博 校長
- ・ 顧問 今町中学校 大滝 雅門 校長
- ・ 研究推進委員 南中学校 関口 久視 教諭、今町中学校 大西 真哉 教諭
西中学校 小池 淳一 教諭

② 研究主題の設定

「自己の課題を発見し、互いに学び合い、高め合う生徒の育成」
～ 豊かなスポーツライフを目指した学び合う授業の創造 ～

③ 2年次研究の概要

- ・ 7月28日(水) ・ 単元構想、指導案検討 ・ 研究会の持ち方について
- ・ 9月15日(水) ・ メンバーによるプレ授業、検討会「陸上競技ハードル走」
・ 研究会の持ち方について
- ・ 9月29日(水) ・ 単元構想、指導案検討「マット運動」 ・ 研究会の役割分担
- ・ 10月20日(水) ・ 単元構想、指導案検討 ・ 研究会の要綱、プレゼン、資料等の検討
- ・ 11月9日(火) ・ 研究発表会前日準備
- ・ 11月10日(水) ・ 研究発表会当日
- ・ 11月30日(火) ・ 指定研究の成果と課題の検討

④ 2年次研究の成果と課題

- ・ スポーツオノマトペ（擬音リズム）を小集団で検証しながら、「仲間と一緒に活動する」「互いに見る、支える」スポーツの価値を分かち合い、相互の技能向上を図ることができた。
- ・ 補助用具、タブレット、遅延再生動画ソフト等の効果的な活用と、ファシリテーションの活用

により、主体的な課題解決場면을促すことができた。

- ・参集型実践発表により、生徒の動きや言動、表情の変化を目の当たりに観察することができた。
- ・どの単元でも3つの取組（動きのポイントやコツの共有、ファシリテーションを活用した課題発見、課題解決のための練習計画シートの作成、実践）が有効であるか検証することが、今後の課題である。

(2) 見附市教育委員会、見附市教育センター、見附市校長会と連携した取組

① 見附市教育センター事業「4時から夢塾」に係わる研修

- ・理科授業改善 ・小の学びを中で生かす外国語、英語 ・タブレットを活用した授業
- ・道徳授業改善 ・師範授業（小学校：算数、社会 中学校：英語、数学）
- ・新型コロナウイルスに係わる健康教育 他

② 見附市教育センター事業「師がく」に係わる研修

- ・見附市が学力向上の目標に位置づけている「新教師の10ヵ条」の視点からの授業改善研修
- ・嘱託指導主事、外部指導者が、受講者の目標や課題に寄り添うマンツーマン研修を、一人年間2回実施

③ 研究成果の発行

- ・研究紀要「2021 見附の学校教育 60号」発行、配付

④ 各種事業の運営

- ・見附市児童生徒夏休み作品展 9月25日（土）～26日（日）
- ・見附市児童生徒科学研究発表会 10月6日（水）
- ・人権教育、同和教育講演会 12月2日（木）
- ・見附市スクールアート展 12月4日（土）～6日（月）

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- ・市内小中特支全職員で構成していた「見附市学校教育研究協議会」（市教協）が、運営面や研修の実効性等の課題から、「働き方改革」と「研修の充実」の実現を目指して令和2年度に発展的解散をした。各校種ともに上位団体の組織活動への一本化を図り、中学校でも校務分掌上の重複等なく、希望する教科、領域に所属して中教研の研修に参加できるようになった。
- ・市教育センター主催の「4時から夢塾」で、外部指導者を招いた授業改善や今日的な課題に係わる研修を行ったり、「師がく」を校内研修として位置づけて指導者振り返りシートや参観者カードを回覧したりする等、各校で学びを深めることができた。・初任者研修、2・3年目教員研修等と見附市が推進する各種研修と連動させて指導効果を高めるとともに、業務のスリム化と効率化を図り担当教員の負担軽減にもつなげることができた。

<課題と次年度の取組（方向性）>

- ・各校中教研会員が、自らの授業改善や自校研究への還元を視野に入れ、見附市及び近隣ブロックを中心とする指定教科、領域研究会へ主体的に参加することと校内伝達研修を推進すること。
- ・指定研究時に、市内各校教科部員が研究推進委員と共に研究にかかわり、授業力向上を図る体制を構築すること。
- ・領域における一斉研修等、持続可能なことを焦点化していくこと。

魚沼市中学校教育研究会 研究活動の概要

温かい学級づくりを基盤とした確かな学力向上と不登校の未然防止の取組

魚沼市中学校教育研究会 会長 種村 博行
同 副会長 小野塚 満

1 今年度の課題と取組

〈今年度の課題〉

- 確かな学力の育成、不登校の未然防止、「温かい学級づくり」の推進

〈取組〉ICTの活用をふまえての

- 教科部会や各種教育部会における研修事業
- 重点教科等の指定事業

2 研究活動の概要

(1) 重点教科等の活動

魚沼市教育振興会の活動と連動して、各教科部会と各種教育部会を実施している。毎年、各教科や各種教育から重点教科・領域を決め、活動の充実を図っている。今年度の重点教科・領域は、「国語」「体育・保健体育」「外国語・英語」「道徳」「特別支援教育」「食育」である。

- ① 国語 中越教育事務所の重点教科訪問を受け、「主体的・対話的で深い学びを具現化する国語授業」を目指し、具体的な支援策を講じた授業提案を行いながら授業の改善、指導体制の改善に取り組んだ。

指導者 中越教育事務所 副参事 内藤 貴志 様

魚沼市教育委員会 指導主事 堀江 康之 様

- a 6月17日(木) 広神中学校 授業者：教諭 小林 亮介
- b 9月16日(木) 湯之谷中学校 授業者：教諭 松崎 豊
- c 10月5日(火) 魚沼北中学校 授業者：教諭 篠原美沙代
- d 10月27日(水) 小出中学校 授業者：教諭 高野はるな
- e 11月9日(火) 堀之内中学校 授業者：教諭 荒牧祐貴也

- ② 体育・保健体育 部員で3観点評価について学びながら、各校での取り組みや評価方法について情報交換を行った。

- a 講義「保健体育科の3観点評価について」
期日：11月12日(金) 会場：魚沼北中学校
講師：長岡市立西中学校 校長 八木 義克 様

- ③ 外国語・英語 新しい評価、新しい教科書の活用に焦点をあて、「主体的に英語学習に取り組む生徒の育成」を研究主題として取り組んだ。

- a 第1回英語部会(期日：5月7日(金) 会場：堀之内中学校)
内容：研究主題の決定、年間活動計画の立案
- b 第2回英語部会(期日：8月19日(木) 会場：堀之内中学校)
内容：講義「新しい観点による学習評価と指導の在り方」
講師：新潟大学附属長岡中学校 教諭 佐藤 正秀 様
- c 第3回英語部会(期日：11月1日(月) 会場：魚沼北中学校)
内容：公開授業研修 1年 Program 5 The Junior Safety Patrol 友達紹介
授業者：魚沼北中学校 教諭 井口 真紀
指導者：十日町市立橘小学校 校長 新澤 悟 様

- ④ 道徳 研究テーマを、役割演技や自我関与にせまるための教師の問い返しなどとして、授業を展開するうえでの手法について研修を進めてきた。

- a 第1回 道徳部会(期日：4月21日(水)、会場：湯之谷中学校)
内容：新潟県中学校教育研究会の研究テーマ検討、活動計画検討。
- b 第2回 道徳部会(期日：7月5日(月)、会場：広神中学校)
内容：研究の方向性確認。各校からの実践報告。
- c 第3回 道徳部会(期日：8月25日(水)、会場：広神中学校)
内容：指導案検討、研究手法の検討。(役割演技、自我関与にせまるための問い返しなど)

- d 第4回 道德部会（期日：9月15日（水）、会場：広神中学校）
内容：講義「道德教育におけるICT」 ※Zoomによる開催
講師：新潟青陵大学 教授 中野 啓明 様
 - e 第5回 道德部会（期日：10月28日（木）、会場：広神中学校）
公開授業収録 広神中学校 教諭 橋本 哲明
2年2組「ごめんね、おばあちゃん」（C14家族愛、家族生活の充実）
 - f 新潟県中学校教育研究発表会（期日：11月17日（水）、※Zoomによる開催）
収録した授業を配信し、事前に視聴した授業をもとに協議会を開催。
指導者 上越教育大学上廣道德教育アカデミー特任教授 小宮 健 様
魚沼市学習指導センター 統括指導主事 新澤 美和子 様
- ⑤ 特別支援教育 Zoomを使った研修会と人数制限をかけた授業公開を行った。どちらも初めての試みだったが、多くの会員が参加した。
- a 研修会（期日：8月23日（月）、※Zoomによる研修）
講義：「特別な支援を必要とする児童・生徒のあり方について」
講師：県立教育センター 副参事 大谷 誠 様
 - b 授業公開（期日：11月5日（金）、会場：広神西小学校）
授業者：特別支援学級5・6年 広神西小学校 教諭 曾根 康文
指導者：魚沼市教育委員会 学校教育課 指導主事 水野 興司 様
- ⑥ 食育 小学校から中学校までの9年間で一貫した食育に取り組めるように、食育指導案及びそれに付随した資料を作成した。
- a 期日：6月17日（木） 会場：小出郷福祉センター 食育指導案の検討
 - b 期日：8月19日（木） 会場：広神中学校 食育指導案の検討
 - c 期日：2月16日（木） 会場：小出郷福祉センター 食育指導案の検討
 - d 期日：2月 印刷及び各校へ発送

上記の重点教科・領域以外でも、部会や授業研究会を含めた年間最低2回以上の研修会を実施している。その際、教科と各種教育の研修日を別とし、会員がそれぞれの部会に参加できるよう配慮している。

- (2) 魚沼市教育委員会「温かい学級づくり支援事業」への主体的参加
今年度は魚沼市教育委員会が推進する「温かい学級づくり」の全員研修会等に主体的に参加した。
- (3) プロポーザル事業の実施
本事業は2校以上の職員が共同して行う教科等の研修であること、目的が学力向上等につながる研修であることを対象にしている。選考委員会によって研修計画を審査し、優れた企画に対して研究助成した。今年度は、「学校保健」「『温かい学級づくり』を目指した授業づくり」「ICTを活用しての授業改善」の3件を採用し主体的な研修を支援した。
- (4) 研究成果の刊行
「魚沼市の教育」（A4判 44ページ）を刊行し全小中学校に配付した。主な内容は、重点教科等、各教科・各種教育、各校、学習指導センター、理科センターの活動報告である。

3 成果と課題、次年度の取組

〈成果〉

- 中越教育事務所の重点教科訪問とリンクさせ、各教科の研修体制を整備してきた。今年度の国語、既に効果的な取組を行ってきた教科と合わせて主体的な研修体制が構築できた。
- 各部で「温かい学級づくり」を意識した授業実践が行われた。この成果として、生徒同士が学び合う授業や教師同士の学び合いが進み、授業改善につながった。

〈課題〉

- 職員の人事異動が頻繁なため、積み上げてきた成果を継続、発展させることが難しい。
- 日常業務の多忙化、旅費の負担等で必要な回数の研修会を開催することが難しくなっている。

〈次年度の取組〉

- GIGAスクールの初年度、まだまだ端末利用の授業改善を進めていく必要がある。本年度の実践をもとに、ICT活用の有効性や課題を職員間、学校間で共有しながら、職員研修を充実させていく。
- 研修を効率的に実施するための工夫をして、負担感の少ない研修体制を検討する。

「未来を切り拓く心豊かでたくましい生徒の育成」

南魚沼郡市中学校教育研究会会長 須田 雄一

同 副会長 渡辺 和人

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

- ・子どもの実態把握に基づく指導課程の工夫や学習指導の改善・充実
- ・新学習指導要領に基づいた教育課程の編成及び評価
- ・G I G Aスクールにおける各教科等の実践の推進

<取組>

- ・本郡市中学校教育研究会は、郡市小学校教育研究会との密接な連携を取り、郡市教育振興会として共同で研究活動を推進している。
- ・年度始めに教科・領域ごとに研究テーマを設定し、年間2～3回の部会及び授業研究会等を開催した。
- ・重点教科は国語及び算数・数学とし、教科主任等が学力向上策等の情報交換を行った。
- ・県中教研指定研究1年次「数学」は会場校である大和中学校を中心に研究を進め、5校全てで公開授業を行った（学習指導センター主催）。

2 研究活動の概要

(1) 総会 4月30日(金) 会場：部会ごとの分散開催

(2) 各部会 日程・会場：8月を中心に各部会により設定

(3) 各教科・領域の研修内容

教科等	研修内容
国語	○講演会「学校における読書指導の在り方と評価について」 ・講師：新潟大学教育学部 准教授 足立幸子 様
社会	○評価評定、G I G Aスクールにおける社会科授業の在り方に関する意見交換
数学	○講演会 南魚沼市で目指す「主体的・対話的で深い学び」 ・講師：茶谷 明 様（前学力向上専門監）
理科	○講演：プログラミング教育講演会・実習 ・講師：大島 崇行 様（上越教育大学大学院准教授） ○授業研究（八海中学校）
音楽	○実技研修 プログラミングを活用した創作活動
美術	○実技研修「パステルシャインアート」
保健体育	○年間指導計画の情報交換と研修
技術	○技術分野年間指導計画についての情報交換 ○G I G Aスクール導入タブレットに関わる校内環境整備についての情報交換
家庭	○郷土料理に関する講話、実技実習 ・講師：J Aみなみ魚沼 食育推進委員 様
英語	○講演会 小学校と中学校の連携を大切にした「外国語学習の授業づくり」 ・講師：上越教育大学教授 大場 浩正 様

道徳	○授業研究（塩沢小学校） ○情報交換
特別活動	○情報交換・新型コロナウイルス対応を踏まえた特別活動の進め方について
生徒指導	○講演「児童生徒の心を開くかかわり方」 ・講師：豊野 一孝 様 ○情報交換
進路指導	○進路指導に関わる情報交換
学校保健	○講話 「周囲と連携した児童生徒への支援について」 ・講師 佐藤 真奈美 様 ○グループ研修
総合学習	○講演「西部幹線用水路の歴史と管理」 ・講師：南魚沼土地改良区 様

（４）研究成果の研究紀要 「研究と実践の概要」 電子データによる閲覧

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- ・指定研究1年次に当たる数学について、郡市全中学校における授業公開と研究推進委員会を開催し研究を深めてきた。その際、南魚沼市学習指導センターとも連携しながら、協議・情報交換を進めることができた。
- ・各教科等において、今年度から本格実施となった新学習指導要領に基づいた教育課程編成や単元構成の工夫、評価について情報交換を行い、自校での取組の見直しにつなげることができた。

<課題>

- ・新しくなった評価の三観点のうち、「主体的に学習に取り組む態度」の観点について、どのように評価を進めるのか、学校や教科等間、個々の教師間で認識に差がある。今後も工夫や改善を進め、情報交換を行うことで、明確で公正な評価を目指すとともに、指導と評価の一体化を進める必要がある。
- ・小学校の取組の成果の共有や授業等での生かし方など小学校教育研究会との連携をさらに進めていく。
- ・1人1台のタブレット端末が実現し、各校で意欲的に活用方法が検討、実施されている。その知見を活かし、効果的な活用について今後も引き続き共有していく必要がある。

<次年度の取組（方向性）>

- ・数学の指定研究の推進及び研究発表会の実施について、郡市を挙げての協力体制をさらに強化する。
- ・南魚沼市学習指導センターとの連携を継続し、各校における授業公開及び研究協議会において、教師の授業力向上と生徒の学力向上を目指す。
- ・各教科等部会において、評価に関する各校の取組事項を共有し、さらなる改善を目指す。
- ・タブレット端末の効果的な活用の推進。

21世紀に求められる資質・能力をはぐくむ教育の創造

～生徒の学びを深める授業の実践を通して～

燕市・西蒲原郡中学校教育研究会会長 河井 昌之
同 副会長 森田 雅弘

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

- ・教科等部会 … 新学習指導要領全面実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり。3観点による新しい評価とタブレット端末の活用をどう進めていくか。
- ・領域部会 … よりよい学校生活を築くための自校での役割と生徒への専門的な支援の在り方。

<取組>

- ・教科等部会 … 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう人間性等」の資質・能力をバランスよく育むために、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善と公開授業の実施
- ・領域部会 … 自校の課題に適切に対処できる高い専門性を養う研修会の実施

2 研究活動の概要

- (1) 評議員会 4月9日 (2) 総会・研究部会 5月21日 (3) 前期部長会 7月6日
(4) 一斉研修会 11月4日 (技術・家庭部会 10月7日、道徳科部会 11月2日)
(5) 後期部長会 11月25日

<各教科・領域の研究主題>

部会	会場	研究主題・内容
国語	弥彦中	・主体的・対話的に学習に参加し、深い学びを実現する生徒の育成
社会	分水中	・学び合いを通し、主体的に学習に取り組む生徒の育成
数学	吉田中	・「主体的・対話的な学び」から「深い学び」を実践する生徒の育成
理科	燕北中	・科学的な思考力・判断力・表現力を養う授業の工夫
音楽	分水中	・対話を通して学びを深めるための手立ての工夫
美術	吉田中	・学び合いを大切にし、生徒が主体的に学びを深める授業の工夫
保体	弥彦中	・課題解決に向け、主体的に学び、関わり合いながら学びを深める生徒の育成
技家	吉田中	・身近な生活から課題を見つけ、工夫しながら解決しようとする生徒の育成
英語	小池中	・主体的・対話的に学習する生徒の育成
道徳	吉田中	・自己をみつめ、多面的・多角的に人間の生き方を考える生徒の育成
特支	燕西小	・講演テーマ「一人一人の力を高める自立活動の指導」
学保	新緑が丘・スポーツ広場センター	・現代的健康課題を抱える児童生徒への支援と養護教諭の役割
事務	分水中	・主体的・積極的に校務運営に参画する「専門職」としての学校事務職員像の追究

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- ・公開授業を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに有効な手だてを各部員で共有することができた。
- ・3観点による新しい学習評価とタブレット端末の活用方法について、各校の取組状況を情報交換することができた。
- ・優れた講師や指導者を招いて、講演会や研修会を実施したことで、部員の専門性を高めることができた。

<課題>

- ・例年、同じ時期に一斉研修会を開催しているため、行事等で準備が大変な教科や、同じ単元で公開授業を行うことになる教科があった。
- ・推進委員会で検討した授業プランが、校内の研究推進部の検討により変更されることがあった。

<次年度の取組（方向性）>

- ・今年度の研究主題を継続し、実践を通して授業改善に努めるとともに、手だての有効性について検証し知見を得る。
- ・各教科・領域の課題解決を目指して研修に取り組み、より専門性を高める。

新潟地区中学校教育研究会 会長 佐久間 栄基
(新潟市立宮浦中学校)

1 地区中教研の活動

新潟地区運営推進委員会 1月27日(木)

- ① 2年次(R1) 研究発表教科・領域部長から成果と課題
- ② 1年次(R2) 指定教科・領域の研究の方向性についての協議
- ③ 研究推進・運営推進等の質疑・検討

2 県中教研指定研究等による研究会

教科・領域	研究主題	期日	会場(参加人数) 授業校
社会	社会認識を高め、確かな学力を育てる授業はどうあるべきか	11月4日	オンライン開催(95名) 新潟市立石山中学校
理科	学び合いを通して、科学的な思考力・判断力・表現力を高める理科指導の工夫	11月4日	オンライン開催(103名) 新潟市立新津第一中学校
英語	主体的に学び、4技能5領域をバランスよく高めていく生徒～評価材料共有による単元を通じた指導を通して～	11月4日	オンライン開催(193名) 新潟市立潟東中学校
保健体育	課題をもち、主体的に学び合う生徒の育成～深い学びにいたる、わかる・できる授業を目指して～	6月29日	参集(24名) 新潟市立山の下中学校
進路指導	将来への夢や希望をもち生き方を考えるキャリア教育の推進～キャリア・ノートを活用した基礎的・汎用的能力を高める工夫～	11月17日	参集(83名) 新潟市立東石山中学校

3 地区中教研の成果と課題、次年度の取組(方向性)

教科領域	主な成果	主な課題
社会	生徒が課題を自分のこととしてとらえることができ、課題追究の意欲が持続した。話し合い活動を通じ、意見の再構築が行われ、知識の定着が見られた。	事実を根拠としたものより、ステレオタイプのイメージに依拠した意見が多数あり、人々の具体的な生活の姿、産業等、その地域の地域性の理解を深める時間を確保することが必要である。
理科	立体モデルが、思考力・判断力を高める効果があった。立体モデルの製作を通して、積極的に関わり合う姿が見られた。立体モデルを通じての交流がきちんとできていた。	できあがった立体モデルを基に一般化していく交流の場の設け方の工夫、振り返りにかかる時間の確保が必要である。
英語	明確な目的・場面・状況の設定を行うことにより、生徒は目的をもって発表を中心としたスピーキングの活動に取り組むことができた。お互いにアドバイスをし合い、良い点を共有することにより、生徒自ら考える主体的な学びに結びつけることができた。	単元のゴールに向けてより深い学びに向かう効果的な活動について、今後も研修を重ねる必要がある。スキージャンプ以外のリスニングやライティングなど他の技能にも活用して、授業実践を行う

教科領域	主 な 成 果	主 な 課 題
保健 体育	3つの手立て（学習環境の工夫，単元構成の工夫，ICTの活用）により，生徒の主体的で協働的な活動が展開され，わかる・できるが一体化し，深い学びにいたる生徒の姿が確認できた。	指導と評価の一体化についてのさらなる研究推進。ICTの効果的な活用法と運動量の確保。
進路 指導	異学年の生徒同士が共通の経験を土台に，オープンクエストを用いて，自らの成長を語り合い，価値付けを行う活動は，生徒自身が成長を実感し，前向きに将来と向き合うことができる点で有効だった。	「いいね」を記入する活動で，語り合った内容ではなく話し合いの取組を評価する記述が見られた。価値付けの機能を十分にもたせるために，語り合った内容を評価させるようにする必要がある。

<成果>

- 今年度，コロナ禍により，各教科・領域において改善，縮小はあったものの，ICTを活用した運営や授業スタイルを導入し，より最適かつ有効な研修を実施することができた。
- 研究推進において，学校づくり，授業づくり，単元デザイン，評価のスタイルなどが様々な課題解決の過程を通してつくられ，教職員の暗中模索の結果として掴み取ったものが，学校にとって価値のあるものとなり，学校自体の牽引する力となった。
- リモートによる研修により，遠方からの参加が容易になり例年よりも多くの部員が参加できた。
- 前もって授業を撮影したことにより，研究の視点をより明確にすることができ，協議会に多くの時間をとることができた。
- 県中教研の指導案書式を用いたことにより，業務削減につながった。
- 令和元年度から行っている，新潟市中教研部長会を新潟地区運営推進委員会と位置づける方法を継続したことにより，運営しやすくなった。

<課題>

- オンラインでの参加部員が，現地での協議会の内容を，十分には共有できなかった。
- コロナの関係で幹事会等回数を極力減らした結果，幹事の先生方や推進校の先生方それぞれの立場で個々に作業を進めなければいけなくなり，かえって負担が増した。指導案作成に関しても，授業者と部長の間で何度もメールでのやりとりをし，その中での作成となった。一斉研修会についても，準備の段階から当日まで，幹事のみ大きな負担となってしまった。来年度は，対面で幹事会や研修会が行われることを願っています。

<次年度の取組（方向性）>

- 来年度以降もリモート等による開催を検討していく必要があるが，状況に応じて対面による研修協議を含め，ハイブリッドの研修を進めていく。
- ICTの力を借りて様々なリソースにあたり，自己の経験とつなぎながら，思考・探究を繰り返し，他者との関わりや対話・協働の中で感化され，自分の理解を自覚的に更新していくことができる深い学びに繋げていきたい。
- 新潟地区は新潟市単独で地区を構成しているため，新潟地区運営推進委員会を充実させるために県中教研事務局との連携を密にしていく必要がある。

新潟市中学校教育研究会 研究活動の概要

「自分の力に自信をもち、心豊かな子どもを育てる中学校教育」

新潟市中学校教育研究協議会

同
同

会長 佐久間 栄基
副会長 藤本 洋則
副会長 渡邊 由紀夫

1 今年度の課題と取組

〈今年度の課題〉

「新潟市教育ビジョン第4期実施計画」の理念のもと「新潟市の学校教育」を実践の柱に事業を推進する。

〈取組〉

会員一人一人の研修意欲を高め、各学校の研究活動の充実を図るために共同研究を実施し、その成果や先進的な取組等の情報を共有・集積し、活用する。

2 研究活動の推進

- (1) 「新潟市教育ビジョン第4期実施計画」の理念のもと「新潟市の学校教育」を実践の柱に事業を推進する。
- (2) 新潟市教育委員会、新潟市中学校長会から指導・助言を受け、県中学校教育研究会（以下、県中教研）と連携して事業を推進する。

3 研究活動の概要

- (1) 第1回部長会 4月15日(木) 県中指定研の推進・運営・発表の確認及び意見交換、各組織の運営方針の確認
- (2) 第1回評議員会 5月6日(木) 運営方針・事業大綱・前年度決算等の承認
- (3) 各教科・領域幹事会 5月6日(木) 各教科・領域の組織編成と事業計画作成
- (4) 第2回部長会 1月27日(木) 今年度の成果と今後の課題検討
- (5) 第2回評議員会 2月3日(木) 事業報告・新年度の大綱案の審議
- (6) 研究成果の刊行 「実践報告書」(A4版 300部 各学校3部配付)
- (7) 各部の活動

①一部（教科等）発表会（全員参加の研修会）

令和3年11月4日(木)

部会	研究主題	会場	指導者
国語	生き生きとした活動を通して、言語能力を伸ばす指導～文章を理解し、批評しよう～	Google classroom によるオンライン開催	新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 佐藤 恵美 様
社会	社会認識を高め、確かな学力を育てる授業はどうあるべきか	石山中学校 各幹事の学校	新潟市立南浜中学校 校長 坂井 孝 様
数学	数学的に考える資質・能力に向けた授業改善の工夫～全員共通実践を通して～	Zoom によるオンライン開催	国立教育政策研究所 調査員 水谷 尚人 様
理科	学び合いを通して、科学的な思考力・表現力を高める理科指導の工夫	Zoom によるオンライン開催 (新潟第一中・大形中・豊野木中)	新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 庭田 茂範 様 新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 安藤 達郎 様 新潟市立中野小屋中学校 校長 信江 弘一 様
音楽	感性を働かせて、仲間と共に音楽にかかわり続ける生徒の育成	Zoomによるオンライン開催	新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 堀川 雅司 様
美術	豊かな感性を養い、主体的に創造活動を楽しむ生徒の育成	西川中学校	新潟市立総合教育センター 指導主事 南 伸裕 様 新潟市立西川中学校 校長 佐藤 靖子 様 新潟市立東新潟中学校 校長 渡邊 昌彦 様
保健体育	運動に親しみ、自ら学ぶ生徒の育成～学び合いを通して、わかってできる授業の創造～	Zoom によるオンライン開催	新潟市立総合教育センター 指導主事 音田 和行 様 新潟市立横越中学校 校長 齋藤 雅敏 様 新潟市立白井中学校 校長 小林 輝幸 様
技術・家庭	生活を工夫し、創造しようとする生徒の育成～実践的・体験的な活動を通して学び合う授業～	Zoom によるオンライン開催	技術分野 新潟市立関屋中学校 校長 山田 聡 様 家庭分野 新潟市立光晴中学校 校長 逸見 東子 様
英語	主体的に学び、4技能5領域をバランスよく高めていく生徒～評価材料共有による単元を通じた指導を通して～	Zoom によるオンライン開催	新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 中川 久幸 様 新潟市立総合教育センター 指導主事 小林 英男 様
あすなろ教育	共生と自立～一人一人の教育的ニーズを把握し、基礎学力・生活スキルの定着をめざす～	下山中学校 新潟柳都中学校 白南中学校	新潟市立岡方中学校 校長 小泉 浩彰 様 新潟市立坂井輪中学校 校長 石川 潤 様 新潟市立新津第五中学校 校長 田中 恒夫 様 新潟市立白南中学校 校長 和泉 哲章 様
養護	自分の健康を考え、よりよい生活を実践できる生徒の育成～「対話的な学び」を通して～	Zoom によるオンライン開催(光晴中・早通中・東石山中・山崎中・金津中・小針中・巻西中)	新潟市教育委員会 保健給食課・学校支援課・総合教育センター 指導主事 金 美千子 様
学校事務	事務機能を強化し組織的な学校経営を支援する	秋葉区役所 会議室	新潟市立寄居中学校 校長 阿部 雄生 様 新潟市立小針中学校 校長 白石 誠史郎 様

②二部（領域）発表会（10 領域 少なくとも2年に1回は発表会を実施する。）

部会	研究主題	会場	指導者
道徳 11月24日	豊かなかかわりを通して、よりよく生きようとする生徒の育成 ～対話を通して多面的・多角的に考えながら、最適解・納得解へ向かう展開の工夫～	白新中学校	新潟青陵大学 福祉心理学部 教授 中野 啓明 様
総合学習	生きる力の育成を目指し、問題の解決や探究活動に、 主体的、創造的、協働的に取り組ませる活動の工夫	研究実践集作成 1月21日〆切	新潟市立小新中学校 校長 保科 賢一郎 様 新潟大学附属新潟中学校 校長 皆川 宏志 様
生徒会活動	自発的、自治的な生徒会活動の展開及びリーダーの育成	研究実践集作成 2月28日〆切	新潟市立小合中学校 校長 中野 民生 様 新潟市立巻西中学校 校長 浅見 博幸 様
学級経営 11月26日	よりよい人間関係を育む学年・学級経営の工夫 ～他との関わりを必要とする活動を中心として～	宮浦中学校	新潟市立岩室中学校 校長 本多 豊 様 新潟市立山潟中学校 校長 貝塚 敦 様
進路指導 11月17日	将来への夢や希望をもち生き方を考えるキャリア教育の推進 ～キャリア・ノートを活用した基礎的・汎用的能力を高める工夫～	東石山中学校	新潟医療福祉大学 健康科学部 教授 脇野 哲郎 様 新潟市教育委員会 学校支援課 指導主事 庭田 茂範 様 新潟市立木戸中学校 校長 佐藤 文俊 様 新潟市立巻東中学校 校長 斎藤 伸 様
生徒指導 10月13日	子ども一人一人の成長を促すための生徒指導 ～自律性、社会性を育成するための取組～	江南区文化会館	スクールロイヤー 小金澤 俊裕 様
図書館	読書に親しむ子どもを育成する図書館機能 の在り方	研究実践集作成 11月24日〆切	新潟市立白根第一中学校 校長 熊谷 勝利 様 新潟市立高志中等学校 校長 上野 昌弘 様
情報教育 8月3日	情報機器を活用した指導のあり方 ～タブレット端末等を学び合いのツールとして～	新潟市立総合 教育センター	新潟市立金津中学校 校長 稲葉 康宣 様
学校保健	生徒の健やかな心身の育成を目指す チーム学校の推進	研究実践集作成 10月16日〆切	新潟市立石山中学校 校長 阿部 修 様 新潟市立白根北中学校 校長 緒方 猛 様
教育課程 12月9日	学校課題を解決する全員参加による教育課程編成・実施 ～「新潟市の学校教育」を見据えた、チーム学校づくり～	藤見中学校	新潟市教育委員会 学校支援課 総括指導主事 三條 貴之 様

4 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

各学校において、新潟市の授業づくり「主体的・対話的で深い学びを実現する『学習課題とまとめ・振り返り』のある授業」「全ての子どもが安心して参加できる授業」「生徒指導の視点を意識した授業」に取り組んできた。また、県中教研の運営の重点『「見方・考え方」に着目し、「深い学びにいたる学び合う授業」』のもとに、研究校を中心に研修に取り組んできた。研修を通して、教師の学び合う姿勢が、生徒の深い学びの推進につながっている。

コロナ禍で研修を推進していくため、部会や幹事会、一斉研修等、可能な限りリモートでのオンライン開催を推奨した。移動時間がかからなくなる分、協議に十分な時間がかけることができたとの報告を受けている。

<課題>

リモートでのオンライン開催が多かったが、新潟市の接続環境の状況を鑑み、自宅研修を推奨し、ご理解ご協力をお願いした。新潟市のネット環境にまだまだ脆弱な面があり、参加人数や視聴場所の制限等の課題も明らかになった。来年度以降もリモートでの研修を検討しているので、新潟市教育委員会との連携協議を密にしていく必要がある。

例年通り、木曜日開催にて実施しているため、一斉研修前などに幹事会・準備会が集中する傾向にある。今後とも見通しをもった運営に努め、調整を図っていく。

<次年度の取組（方向性）>

今年度から学習指導要領が全面実施され、資質・能力の3つの柱として「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」と新しい3観点に改訂された。また、GIGAスクール構想による1人1台端末を活用した授業の実施されるようになった。今までの授業の長所を活かしつつ、新しい授業へと改善していかなければならない。そのためには、新潟市の方針を確実に理解し、県中教研の研究主題に沿った研究を進めていくことが欠かせない。適切な評価方法、効果的なタブレットの使用法など、研修を積み、実践を重ねていくことが大切である。

予測困難な社会と言われるが、教師も子どもと共に学び合う姿勢を通して、授業において「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育成していけるような研修を推進していく予定である。

下越地区中学校教育研究会 会長 本間 道夫
(新発田市立猿橋中学校長)

1 地区中教研の活動

- (1) 第1回下越地区中教研郡市会長会 7月15日(木) 会場:各学校(zoomによるリモート会議)
- ① 令和3年度下越地区中教研の組織の確認(正副会長、事務局等)
 - ② 令和3年度事業計画、指定研究発表会の期日及び運営等の確認
 - ③ 新しい指定研究発表会の割り振り等の確認
 - ④ 下越中教研申し合わせ事項の検討・確認
- (2) 第2回下越地区中教研郡市会長会 12月8日(水) 会場:各学校(zoomによるリモート会議)
- ① 令和3年度事業、指定研究発表会の運営等の振り返り
 - ② 令和4年度指定研究発表会の開催日・会場校・研究推進責任者・会場校責任者の確認
 - ③ 令和4-5年度の指定研究について
 - ④ 下越地区中教研申し合わせ事項の検討・確認及び次年度郡市会長会の期日確認
- (3) 下越地区指定研究運営推進委員会 12月8日(水) 会場:各学校(zoomによるリモート会議)
- 参加者: 県中教研各郡市会長(5名)
- 令和元年度・3年度指定研究 研究推進責任者(5名)
- 令和3年度-4年度指定研究 研究推進責任者(5名)、会場校責任者(5名)
- ① 令和元年度・3年度指定研究(2年次)の実践報告と成果発表(全体)
 - ② 令和4年度の取組の方向性を探る(グループ別)

2 県中教研指定研究等事業による研究会

教科領域	研究主題	期日	会場校・参加数 (会場校職員除く、リモート参加含む)
社会	社会的な見方・考え方を働かせ、課題解決を図る生徒の育成 ～聴き合い、思考を深める～	10月27日(水)	五泉市立村松桜中学校(35人)
理科	生徒の主体性を育む、学び合う授業の創造	11月11日(木)	村上市立岩船中学校(25人)
英語	英語で自分の考えや気持ちを伝え合う生徒の育成 ～生徒に見通しをもたせる学習プロセスの工夫～	11月26日(金)	五泉市立五泉中学校(29人)
保健体育	学び合いを通して課題を導き出し、解決しようとする生徒の育成	11月2日(火)	村上市立荒川中学校(21人)
進路指導	体験的な活動を通して、自分自身や地域のよさや特色を理解し、将来の生き方を見つめる生徒の育成	11月5日(金)	新発田市立七葉中学校(22人)

3 下越地区中教研の成果と課題、次年度の取組(方向性)

教科領域	主な成果(研:研究面、運:運営面)	主な課題(研:研究面、運:運営面)
社会	研単元全体を貫く学習課題を設定し単元の指導計画を作成した。ワークシートから考えを修正し、根拠を明確に表現するなど、見方・考え方を働かせ学びを深める姿があった。	研見方・考え方を働かせるための単元を貫く課題と、解決に向けた小単元毎の課題と配列をよく吟味する必要がある。 研どのような思考ツールが、見方・考え方を働かせより深い学びに繋が

	<p>研 ロイロノートのピラミッドチャートを思考ツールとして使用した。考えの変容を視覚的にとらえさせることができた。</p> <p>運 第1回研究推進委員会で研究の意図やねらいを共有し、五泉市・東蒲原郡社会部全体で研究が推進できるよう研究計画を作成した。</p>	<p>るのか研究が必要である。</p> <p>運 授業をリモート配信(4台)したが、映像や音声でわかりやすく参加者に伝えることができたか不安な面がある。</p>
理 科	<p>研 ツールを活用して思考の整理、可視化、共有などを行った。思考を整理したり可視化したりすることで、生徒が思考を深化させることができた。</p> <p>研 授業の終わりにメタ認知の活動を促すことで、生徒が獲得した資質能力や豊かになった見方・考え方など学びを自覚し、次の学習課題と結び付けることができた。</p> <p>運 事前準備・当日の運営を通して、郡市中教研理科部員と研究の成果や課題を共有できた。研理科部員の研究意欲や研究の質の向上に寄与することができた。</p>	<p>研 スプレッドシートを用いるなど場面場面で有効なツールを精査して活用することが課題である。</p> <p>研 「振り返り」の時間が十分にとれないこともあった。ツールの活用場面や方法を研究して時間を確保することが課題である。</p> <p>運 事前に理科部員に研究の手立てを示し、各校で実践を進めてから研究発表会を迎えると、より質の高い研究になったものと考えている。</p>
英 語	<p>研 授業者は、単元の初期段階で、パフォーマンステスト課題とそのルーブリックを提示した。バックワードデザインの授業を実践することにより、生徒はゴールへのイメージを明確にもって活動できた。</p> <p>研 生徒が活動中でも、授業者は全体の流れを止め、授業支援アプリを活用し、よくある誤り等を全体で確認した。生徒と教師で共有する場面が研修できた。</p> <p>運 下越地区内他郡市の参加者には Web にて授業参観、および協議会に参加してもらい、多くの成果と課題を確認できた。</p>	<p>研 パフォーマンステストを常に意識しながら、知識を定着させる活動、あるいは教科書外の言語活動を帯活動や授業の終末の活動などで実施していきたい。</p> <p>研 言語材料の定着と言語活動のバランスが難しいと感じている。生徒の実態に応じ、各校で研修を深めていきたい。</p> <p>運 カメラワークや、音声を活動中の抽出生に焦点化する方法など、Web配信ならでは課題が生じた。</p>
保健体育	<p>研 タブレットを活用し、「練習→撮影→ペアで動画確認→改善点→練習」を繰り返すことで、課題把握・解決を生徒自らが学び合う姿が見られた。</p> <p>研 単元用の学習ノートを配布し、見通しをもたせることができた。また、自分の思考やその変化、アドバイスを何度も見直すことができ、練習に生かされた。</p> <p>運 月に一度、指導案検討会を行い、研究推進委員会メンバーが取組の情報を共有することで、全員が単元・授業の全体像をイメージしながら検討会を進めることができた。</p>	<p>研 活動が停滞しているペアもあった。活動を止め、一度全体で進捗状況やペアの課題、解決方法を共有する場面を設定すればよかった。</p> <p>研 「完成度」「つなぎ目」の具体例を明確に示す必要があった。</p> <p>運 1年間延期されたため、引き継ぎが十分でない部分もあった。</p>
進路指導	<p>研 3年間のいろいろな働きかけや取組が本時の授業につながり、生徒の成長が見られた。NPO法人の機関から1年次のプレ授業で指導して頂き、生徒の活発な話し合いや仲間の話を聞く態度に生かされていた。</p> <p>研 「キャリアプランニング能力」の数値に向上が見られた。探究的な体験学習や学習ポートフォリオの活用を通して、見通しをもって生活できるようになった。</p> <p>運 3年間の学習活動の成果を会場の壁面に掲示したため、参加者がどのような学びをし、生徒が何を考えてきたか等の足跡を確認することができた。</p>	<p>研 学校行事や学年行事などにおいて、学習の「ねらい」が、育みなどの基礎的汎用的能力と対応するのかが、明確にしていく必要がある。</p> <p>研 1年次に、市内各校が同じキャリアアンケートを実施し、結果を研究の自校化につなげる計画であった。研究の凍結や担当の変更が影響して、各校の足並みを揃えることができなかった。</p> <p>運 部員は、進路指導主事で構成され、キャリア教育担当と一致しない学校があり、進路指導部でキャリア教育の研究を行う難しさを感じた。</p>

<成果>

- ・1年間の凍結期間があり、すべてにおいて不安な状態でスタートしたが、各教科領域で工夫して連携を図り、限られた状況下の中で指定研究発表会を成し遂げることができた。
- ・指定研究発表会当日を含め、さまざまな場面でZOOMによるリモート会議を開き協議会・検討会を実施し、新型コロナウイルス禍でもたくさんの先生方から参加していただくことができた。

<課題>

- ・新型コロナウイルス拡大防止の観点から参加者の制限を設けた。その際の案内の内容や提示の仕方、二次募集の仕方について前もって確認しておく必要がある。
- ・ZOOMでの授業配信のカメラワークや協議会への参加方法など、ZOOMを有効に活用する手立てを準備段階で検討する必要がある。
- ・季節的なことや遠方の先生方がおられることから指定研究運営推進委員会をZOOMで行った。具体的な資料がなかったため音声だけで確認する会となってしまった。ZOOM会議が充実したものとなるよう、会の進め方や必要な資料等を明確にしていく必要がある。

<次年度の取組> (方向性)

- ・次年度もZOOMを活用したりリモート会議や検討会、授業配信等を行い、多くの先生方から県中教研の活動にかかわったり、参加したりしてもらおう。今年度の経験を生かし、ZOOMをさらに有効活用できるよう工夫していく。

確かな学力、豊かな心、健やかな体をはぐくむ生徒の育成

新発田市中学校教育研究会 会長 本間 道夫
 // 副会長 新保 英博
 // 副会長 伊藤 真哉

1 今年度の課題と取組み

<今年度の課題>

新学習指導要領全面実施を念頭に置き各部で活発な話し合いができるように、適切な協議題を設定する。

<取組>

生徒が自分の考えをもった上で、学び合いや他の人とのかかわる活動を通して、一層考えを深めることをテーマに授業実践に基づく研修を進める。

教科の研修では、公開授業に基づく研修を中心としながら、各学校の実践を紹介したり、資料を共有したりして、授業力の向上を図る研修を継続的に実践する。

2 研究活動の概要

(1) 第1回一斉部会 : 4月13日(火) 会場 … 猿橋中学校
 内容 … 各部の主な事業計画案作成

・各部の部長・副部長の決定、研究主題の決定、主な事業計画案作成。

※新型コロナウイルス感染拡大により各部で行った。

(2) 第2回一斉部会 : 11月4日(木) 会場 … 各学校
 内容 … 研究主題に基づいた事業の実施

(3) 各部の研究主題及び主な活動

研究部	研究主題	月日	会場	主な研修内容
国語	確かな読みの力を身につける生徒の育成	11.4	本丸中	○公開授業(1年:古典に学ぶ) ○協議会
社会	学び合いを通して、自分の考えを再構成する生徒の育成	11.4	第一中	○公開授業(1年:世界の諸地域) ○協議会
数学	数学的な見方・考え方を働かせた深い学びのある授業の実現	11.4	猿橋中	○公開授業(2年:図形の性質の調べ方) ○協議会
理科	他者とのかかわりや問題解決的な活動を通して、科学的な見方、考え方を育てる授業の在り方	11.4	東中	○公開授業(3年:運動とエネルギー) ○協議会
音楽	他者との関わり合いを通して、豊かな表現力を高める指導の工夫	11.4	東中	○公開授業(2年:曲の構成に注目しながら、曲想の変化を味わう) ○協議会
美術	人とのかかわりを通して、考えを深めさせる指導の工夫	11.4	新潟市美術館	○鑑賞 ○協議会・実践報告会
保健体育	課題をもち、主体的に学び合う生徒の育成	11.4	本丸中	○公開授業(2年:ダンス:現代的リズムダンス) ○協議会
技術	学び合う活動を通して、生活実践力を高める授業の工夫	11.4	猿橋中	○公開授業(2年:エネルギー変換の技術による問題解決) ○協議会
家庭	学び合う活動を通して、生活実践力を高める授業の工夫	11.4	本丸中	○実践報告(年間指導計画及び評価計画、タブレット使用)

英語	自分の考えや気持ちを整理し、話すことができる生徒の育成	11. 4	川東中	○公開授業（3年：Lesson6 Imagine to Act 仮定法過去） ○協議会
道徳	考え議論する道徳を目指して	11. 9	加治川中	○情報交換 ○「道徳教育」に関する講義 （指導者 豊浦中学校 教頭 山本 亘 様）
特別活動	希望や目標をもち、よりよく生きる力を育む学級活動	10. 12	紫雲寺中	○公開授業（1年：クラスミーティング） ○協議会
生徒指導	いじめや不登校に対応する生徒指導の在り方	10. 12	加治川中	○実践報告 ○情報交換
進路指導	体験的な活動を通して、自分自身や地域の特色を理解し、将来の生き方を見つめる生徒の育成	11. 5	七葉中	○公開授業、（3年：未来プランをつくろう） ○協議会 （指導者：新潟大学教授 松井 賢二 様）
総合学習	地域と学び、社会と関わり、自立する力を育む指導	11. 18	本丸中	○演習 「SDG s de 地方創生」 （講師：新発田市 市民まちづくり支援課 SDGs de 地方創生公認ファシリテーター 松下 昌史 様）
特別支援教育	個の特性を生かした進路の実現に向けて	11. 26	猿橋中	○講演「特別支援が必要な生徒への対応」 （講師：西新発田高等学校 教頭 馬場 宏 様 教諭 村山 栄子 様）
養護	現代的健康課題を抱える生徒への支援と養護教諭の役割	8. 19 12. 3	猿橋中 豊浦庁舎	○講義「困り感を抱える生徒の対応について養護教諭に求められること」 （講師：新発田市教育委員会スクールソーシャルワーカー 江端 三知子様） ○講義「養護教諭が知っておきたい発達凸凹のあれこれ～発達凸凹の視点と支援 見極めと言葉かけのプロになれ～」（講師：小児科医 和田 有子様）
事務	学校事務の質の向上、及び学校事務職員の資質向上のための研修	11. 5	豊浦庁舎	○事例研修 ○実践発表、意見交換

(4) 研究成果の刊行 「新発田市中学校教育研究会 研究紀要」 A4版 38 ページ 210 部

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

教科の研修では、引き続き生徒同士の関わりや学び合いを積極的に取り入れた授業を実践し、協議会でKPTやFT等を活用した有意義な話し合いが行われた。一斉研修日だけでなく、教科部独自の研修を実施し研修を深めることができた。

領域の研修では、今まで行ってきた各校の実践に基づいた情報交換だけでなく、公開授業を行ったり、講演会を行ったりして研修を深めることができた。

<課題>

新型感染症禍で人数を制限したりリモート開催など研修会場を工夫したりして研修を行った。今後も会員がより研修を深めることができる手立てを検討しなければならない。

<次年度の取組（方向性）>

生徒が自分の考えをもった上で、学び合いや他の人との関わる活動を通して、一層考えを深めることをテーマに授業実践に基づく研修を進める。

また、公開授業に基づく研修を中心としながら、各学校の実践を紹介したり、資料を共有したりして、タブレット活用を含め授業力の向上を図る研修を継続的に実践する。

研究主題 生徒の主体性を育み、見方・考え方に着目した授業の創造

村上市岩船郡中学校教育研究会 会長 坂爪 淳

〃

副会長 木ノ瀬隆幸

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

○ 学力向上

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を適切に組み合わせ、授業改善を図る。その際に、各教科の「見方・考え方」を意識することやICTを活用することが必要である。

○ 豊かな心の育成

生徒一人一人が安心して、充実した学校生活が送れるよう、道徳の授業や特別活動等を通して、望ましい人間関係づくりに努め、いじめや不登校、問題行動等の解消に向けた取組を進める。

○ 体力向上

体力向上と健康的な生活の確立を目指した効果的な実践を推進するなど、各校の課題解決に向けた取組が求められている。

<取組>

○ 「学力向上」においては、各部で以下の研究の視点を参考に、重点を定め、必要に応じてICTの活用を図りながら「深い学びにいたる授業」に向けて研究を推進する。

ア 生徒の学ぶ意欲を高め、主体的に学びに向かう課題設定の在り方

イ 教科固有の見方・考え方を明らかにし、それらを働かせて解決に向かう場の設定

ウ 状況に配慮した「学び合いの工夫」や「意図が明確な学び合う授業」

エ 生徒の学びの過程を大切にしまとめや学びの自覚ができる振り返り

○ 「豊かな心の育成」では、生徒の自己肯定感を高め、生徒が積極的・主体的に取り組む教育活動を取り入れる。また、「体力向上」では、体力テストや各種保健調査等の結果に基づき、自校の体力・健康に関する実態と課題を明確にするとともに、保護者や地域と共有する。

○ 新型コロナウイルスの感染状況に最大限留意しながら、教科研究部による授業研修を核とする。また、状況に応じて様々な方法で教育情報の交流を積極的に進める。

2 研究活動の概要

(1) 教科一斉部会 4月27日(火) 会場は原則として各顧問の所属校として分散開催。

(2) 教科外一斉部会 4月下旬～5月末までの期間で、必要な部会のみ参集またはオンラインで実施。

(3) 教科部会研修会及び教科外部会研修会 6月～12月末までの期間で、部会ごとに分散開催。

部会名	期日	会場・授業者	主な研修内容（研修テーマ、育てたい生徒像、ねらい等）
国語	11/4	村上一中	情報交換 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の仕方について
社会	11/25	岩船中 佐々木 傑	公開授業 「地理的な見方を働かせ、中部地方の産業の特色を捉えて表現できる生徒」
数学	11/20	山北中 青山 亮	公開授業 「生徒の主体性を育み、生徒が深い学びにいたるようになるための工夫（手立て）」

理科	11/11	岩船中 水澤 和雅	県中教研指定研究発表会 「生徒の主体性を育む、学び合う授業の創造」 ・事象との出会いの工夫、ツールの活用、見通しと振り返り
音楽	11/9	神林中 小田切美穂	公開授業 「深い学びに至る学び合う授業」 箏曲「さくら さくら」
美術	10/4	関川中 大堀 千歌	県中教研指定（1年次）公開授業 「主体的に美術と関わり、美術作品の自分なりの見方や感じ方を深める指導の工夫」
保健体育	11/2	荒川中 淡路 信幸	県中教研指定研究発表会 「学び合いを通して、課題を導き出し、解決しようとする生徒の育成」
技術家庭	8/19	荒川中	情報交換 「生徒の学びの過程を大切にしたまとめや学びの自覚ができる振り返りの工夫と評価」
英語	9/29	朝日中 菅 優花	公開授業 「生徒の主体性を育み、見方・考え方に着目した授業の創造」 課題設定とスモールステップによる課題解決の工夫
道徳	11/16	神林中 佐藤 義美	公開授業 「広い視野で物事を自分のこととしてとらえ、よりよい生き方を求める生徒の育成」～思考ツールを活用した学び合い～
生徒指導	11/5	朝日中	情報交換 校則の改正について（内容と手順）
特別活動		オンライン等	生徒会を核としたSNSルール等について レポート交換
進路指導	11/1	村上東中	情報交換 令和4年度入試に関して（分担、変更点確認等）
図書館	10/12	村上東中	郡市読書感想文審査会（1/21 郡市読書感想文集校正作業）
総合		レポート	レポートによる各校の実践についての情報交換
特別支援	11/30	荒川公民館	講演会 講師：加茂西小古田校長 「ガイドライン改訂のポイント」
学校保健	12/21	改善センター	講演会 講師：佐藤 SC「現代的健康課題解決に向けて」（小中合同）
学校事務	11/5	朝日庁舎	実践研修 講師：村上市教委高橋指導主事「ICT活用に関して」

(4) 研修のまとめ 県学校支援システムのコミュニティ「村上市岩船郡中学校教育研究会」に集約。

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- (1) 感染状況を十分考慮しながら、部会ごとに集合研修、レポートによる情報交換、メール等でのやりとりを行いながら研修を進めることができた。また、分散開催することで時数確保ができた。
- (2) 「見方、考え方」に着目したり、村上市教委と連携して「課題設定」や「振り返り」を工夫したりして実践研究をすすめる部会が多くなった。

<課題>

- (1) 各種の調査結果から、学力の向上が最重要課題であることが改めて明確になった。年1回程度公開授業では、郡市全体の授業改革、授業力向上は難しいのではないかな。
- (2) 学校保健など、他の研究組織とほぼ同じメンバーの部会がある。研修内容も重複しやすい。業務改善の点からも組織や研修・活動内容の見直しが必要ではないかな。

<次年度の取組（方向性）>

- (1) 教科の公開授業を年3回程度行い、授業改革や授業力向上をより一層推進する。
- (2) 県中教研との連携を図るために、部会は原則として従来どおり組織する。ただし、業務改善の観点からも活動内容を大幅に見直しや削減を図る。なお、県中教研指定研究が予定されている部会は、指定前年度から予備的に研究を開始するなど、対応を工夫する。

資質・能力を育む「深い学びにいたる学び合う授業」の創造
ー学び合い，ICTの活用を通してー

五泉市東蒲原郡中学校教育研究会 会長 渡邊 誠
〃 副会長 石塚 間継
〃 副会長 治田 博樹

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

ねらいを達成する学び合いやICTの利用が図られるよう、単元や授業における位置付けを検討し、より効果的な学び合いを模索したい。

- 新学習指導要領に合わせた年間指導計画や評価基準を、各学校で着実に整えておく必要がある。授業の在り方や学習評価についての基本的な考え方の研修を継続していかなければならない。
- 授業の中の生徒の交流場面では、交流の目的、比較検討させる教材の吟味、相手意識など、目的に合わせた活動を計画していく。
- 各教科等でそれぞれの教科等がもつ特有の良さを意識した深い学びの姿について意見交換するなど、育む資質・能力や深い学びの具体的な生徒の姿がはっきりさせる。
- タブレット等のICTの可能性を知り、授業における効果的な利活用の方法を知る。

<取組>

以上のような課題を受け、本年度は以下に力点をおいて推進してきた。

- ① 生徒が意欲をもって学ぶ課題設定と提示（単元，括り時間，1時間）
- ② 学び合う場面の在り方と学び合いを深める工夫
- ③ 教員のICT技能の向上とICTを活用した授業実践

2 研究活動の概要

(1) 県中教研指定研究（下越地区・社会）

- ① 授業者 五泉市立村松桜中学校 教諭 坂田 信夫
- ② 指導者 県立教育センター指導主事 後藤 純二 様
- ③ 成果と課題

ア 研究の成果

- 単元を貫く学習課題「五泉市（村松地区）に暮らす住民が、より魅力を感じる町づくりを提言しよう」を設定することにより、地域の未来を担う構成員としての意識の高まりが生まれ、自分事として多面的に考えて問題解決にあたらうとする生徒が増えた。
- 自分の考えを他の班の批評を基に再検討させることで、社会的な見方・考え方を働かせ、より具体的で現実味ある考えに至らせることができた。

イ 今後の課題

- 単元を貫く課題を解決するための小単元の配列について吟味する必要がある。
- シンキングツールの効果的な活用方法や、振り返りを行う場面を単元の中に計画的に取り入れることが必要である。

(2) 県中教研指定研究（下越地区・英語）

- ① 授業者 五泉市立五泉中学校 教諭 井上 和徳
- ② 指導者 県立教育センター指導主事 友野 直己 様
- ③ 成果と課題

ア 研究の成果

- CAN-DO リストとルーブリックを活用したことで、生徒が見通しをもって活動することができた。さらに、見通しに沿った帯活動としてスモールトークを続けたことで、生徒自身が自信をもって英語でコミュニケーションをとることができるようになってきた。
- 映像や音声、文章を生徒同士で共有できるアプリを活用することで、相手を意識したコミュニケーションがみられた。

イ 今後の課題

- 一人一人が必要感をもつことができる目的、場面、状況の設定がうまくいかなかった。単語と文法を使用して練習する時間になり、覚えることが目的になってしまっていた。場面や状況の設定を意識することで、生徒が「使ってみよう」と意識が高まる授業構成をしていく。
- 帯活動で英語表現に慣れることはできたが、振り返りの時間を入れることでメタ認知ができる。より効果的にコミュニケーションに臨むことができたのではないか。

(3) 一斉研修の概要

- | | | | | |
|-------------|-----|----------|--------|---------|
| ① 国語（五泉北中） | 指導者 | 五泉市教育委員会 | 指導主事 | 里村 穰 様 |
| ② 数学（三川中） | 指導者 | 五泉市教育委員会 | 指導主事 | 佐藤 和幸 様 |
| ③ 理科（阿賀津川中） | 指導者 | 阿賀町教育委員会 | 管理指導主事 | 小樋山寿幸 様 |
| ④ 道徳（川東中） | 指導者 | 下越教育事務所 | 指導主事 | 田中 一史 様 |

(4) 研究成果物の刊行

五泉市・東蒲原郡中学校教育研究会 研究紀要第13集

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成 果>

- 「魅力ある課題（単元を貫く課題）の設定」、「学習形態の工夫」、「正確な理解と適切な表現」、「言語活動の充実」など、各教科等で重点化して授業改善に取り組むことで、生徒の主体的な学びや学び合いに深まりが出てきた。
- ICTの効果的な活用により、学び合いやまとめを効率的に行うことができた。

<課 題>

- 課題の吟味が大切になる。生徒に何を学ばせるのかを生徒の思考に沿って単元構成を考えていくことが必要である。
- 「振り返り」の場面や目的が明確になると、学びの深まりが違ってくる。単元や授業のどの場面で、何を振り返るのか計画的に組み込んでいくことが大切になる。

<次年度の取組（方向性）>

○深い学びにいたる授業改善に向けた実践研究

- ・生徒が実生活と関係づけて学びを深められるような課題や場面の設定を図る。
- ・生徒の意見を上手くつなぎ、全体で意見を共有できるように、授業の構成力・伝え方の技術の向上を目指す。
- ・振り返りについて、何を、どの場面で振り返るのか単元計画に組み込む。

深い学びにいたる学び合う授業を通して、考えを深める生徒の育成

阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中学校教育研究会 会 長 丹後 直子

〃 副会長 石崎 晃一

〃 副会長 山田せい子

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、深い学びの実現に向けた授業改善を行う。

<取 組>

各教科・領域において、①生徒に身に付けさせたい力を明らかにする、②どんな見方・考え方を働かせるのかを明らかにする、③問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの学習過程について追究することを指導構想のポイントとし、会員の共通理解を図りながら、研究を推進する。

2 研究活動の概要

- (1) 第1回理事会・評議員会 4月 9日(金) 組織及び事業計画等の審議
- (2) 一斉部会 4月21日(水) 各部会のテーマ及び事業計画の決定
→コロナウイルス感染症防止のため中止
- (3) 全体研修・一斉部会 8月17日(火) 講演会と各部会で研究授業指導案の検討
→コロナウイルス感染症防止のため中止
- (4) 一斉教科部会・領域部会 各部の計画による 下表参照

部会名	研究副題・指導者	会 場	研究授業日・研修日
国 語	自分の考えを深め表現できる生徒の育成～言葉による見方・考え方を働かせる学び合いの工夫～	京ヶ瀬中	10月27日(水)
社 会	深い学びにいたる学び合う授業を通して、考えを深める生徒の育成～SDGsの視点を通して考える授業実践～	中条中	11月2日(火)
数 学	他と関わることで自他の考えを対比し、新たな気づきを生む授業の工夫	水原中	11月2日(火)
理 科	観察・実験の結果をICT機器に入力して考察し協働的に学ぶ授業 指導者 下越教育事務所学校支援第2課指導主事 平山 裕也 様	水原中	11月2日(火)
音 楽	学びあいを通して、考え方を広げ、表現力を育てるための評価の工夫 指導者 新潟教育研究所教育アドバイザー 太田 三平 様	聖籠中	11月2日(火)
美 術	他者との対話を通して豊かに感じ取る力を高める授業の工夫	水原中	10月21日(木)
保 健 体 育	深い学びにいたる学び合う授業を通して、考えを深める生徒の育成～学び合いを通して、場面に応じた選択や運動・スポーツの実践力を身に付ける～	安田中	10月27日(木)

部会名	研究副題・指導者	会 場	研修日
技 術 家 庭	自分とつながり、人とつながる指導の工夫	聖籠中	11月2日(火)
英 語	主体的に英語を用いて、コミュニケーションを図ろうとする生徒の育成	聖籠中	10月26日(火)
道 徳	互いの良さを認め合い、よりよい生き方を積極的に求める生徒の育成～他者の考え方を理解し、自分の価値観を見直すことで納得解を見付ける授業づくり～	笹神中	11月25日(木)
特 別 活 動	学び合いを通して考えを深め、より良い人間関係を築く生徒の育成	附属新 潟中	10月8日(金) ～22日(金)
学校保健	養護教諭が関わる健康教育	築地中	11月2日(火)
生 徒 指 導	特別な支援を要する生徒の個に応じた学級支援 指導者 新潟水泳協会会長 石川 志郎 様	各学校	11月9日(火) ～15日(月)
特 別 支 援	よりよく関わりあえる生徒の育成	各学校	随時 意見交 換・情報交換
進路指導	望ましい進路選択のあり方について	聖籠中	10月27日(水)
総 合 学 習	コロナ禍における学びの工夫	各学校	随時 情報共 有・情報交換

(5) 第2回理事会・評議員会 2月17日(木) 年度の反省と次年度の取組審議

3 成果と課題、次年度の取組(方向性)

<成果>

各部会ともICT機器を有効に活用し、会員の共通理解を図りながら研修を進め、成果を上げた。主な成果は以下の通りである。

- ・タブレットや資料を使って、意欲的に生徒同士の関わり合う姿が見られたり、豊富な具体策を話したりするなど、主体的に学習していた。
- ・共通点・相違点という観点のもと、ワークシートに整理することで、自分の意見(思考)を可視化することができた。その後のグループ活動を通して、ほとんどの生徒が、自分の考えを記述することができていた。
- ・生徒の意欲をより重視した評価ができるようになり、生徒の振り返りの内容が充実した。

<課題>

主な課題は以下の通りである。

- ・「言葉による見方・考え方」を働かせる学び合いのために、話し合いの前に、比較や関連付けの観点や、明確なゴールの姿を示すことが肝要である。
- ・タブレットをどの場面でどのように使うと効果的なのか、タブレットを使う必要性なども考えて授業を構成していく必要がある

<次年度の取組(方向性)>

次年度も「深い学びにいたる学び合う授業」の構築を目指し、ICT機器の更なる効果的な活用方法を模索しながら、部員間で協力し研修を前へ進めていく。

「未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備え、社会において
 自立的に生きる生徒を育てる中学校教育」
 ～ 佐渡の特性を生かし「志高い生徒」をはぐくむ教育の推進 ～

佐渡市中学校教育研究会 会 長 中川 久雄
 同 副会長 佐藤 元
 同 副会長 山崎 寿徳

1 今年度の課題と取組

<今年度の課題>

- (1) 「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」の実現を目指した授業改善の推進。
- (2) 佐渡市の地域性を生かした教育実践の質的な充実。

<取 組>

- (1) ー①ファシリテーション等を活用した「深い学びにいたる学び合う授業」を積極的に研究・実践する。
 ②外部講師の招聘や、県中教研指定研究会等への積極的な参加を促進し、その成果の共有を図る。
 ③各学校や中学校区を単位として「授業スタンダード10」と「学び合い10」に基づく授業改善を推進する。
- (2) ー①学校や地域の特性を生かし、様々な人々とのかかわりや協働を通して豊かな心をはぐくむ。
 ②キャリア教育の視点に立って、自立に向けた意欲ある生徒を育成する。
 ③道徳の時間における「考え議論する道徳」の一層の充実・深化を目指して研修を重ね、情報を共有する。

2 研究活動の概要

- (1) 教科・領域部会（組織編成と事業計画） 4月30日（金）佐渡市立新穂中学校
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、例年実施されている全体会は行わず、部会ごとの会場で各顧問が運営方針や研究推進の方法等について説明した。
- (2) 一斉研修（午前：領域部会、午後：教科部会） 8月18日（水）～20日（金）
 ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、部会ごとに対面・リモート・書面等、方式を工夫して実施した。
- (3) 各部会の活動（全会員参加の研修）

部 会	研修テーマ	期 日	会 場	授業者/指導者・講演者 （佐渡市中教研会員の敬称は省略）
国 語	「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」の実現を目指した授業改善～深い学びにいたる「学び合う授業」の工夫～	11/8	新穂中学校	佐渡市立新穂中学校教諭 名古屋麻美 佐渡市立松ヶ崎中学校長 山崎 寿徳
社 会	「深い学びにいたる学び合う授業」によって、確かな資質・能力を育てる社会科指導の在り方	11/25	佐和田中学校	佐渡市立佐和田中学校教諭 水野 雅基 佐渡市立佐和田中学校長 長尾 謙治
数 学	学ぶ意欲を高め、分かる喜びを実感できる指導の工夫～数学的な見方・考え方を働かせて学び合う授業～	9/15 10/1 10/27 11/4	松ヶ崎中学校 真野中学校 新穂中学校 畑野中学校	佐渡市立松ヶ崎中学校教諭 渡邊健太郎 佐渡市立真野中学校教諭 佐藤 翔平 佐渡市立新穂中学校教諭 木元 陽介 佐渡市立畑野中学校教諭 磯部 八穂 下越教育事務所指導主事 平野 徹 様 佐渡市教育委員会指導主事 小田 俊裕 様 佐渡総合教育センター所長 加藤雄一郎 様 佐渡市立金井中学校長 香遠 正浩
理 科	主体的・対話的で深い学びに向けた学習指導の工夫～「問い」を大切に授業を通して～	11/4	相川中学校	佐渡市立相川中学校教諭 木村 太郎 佐渡市立高千中学校長 上村 寿彦
音 楽	音楽のよさを感じ、伝え、かかわり合いながら考える生徒の育成	12/2	畑野中学校	佐渡市立畑野中学校教諭 山本美保子 新潟大学名誉教授 伊野 義博 様 佐渡市立両津中学校長 嶋見 靖之
美 術	生徒が感性や想像力を働かせて、表現する授業の工夫	11/19	両津中学校	佐渡市立両津中学校教諭 杉澤 亮 佐渡市立内海府中学校長 荻野 秀和
保 健 体 育	主体的に学ぶ意欲を高め、できる喜びを感じさせる授業の工夫	10/20	金井中学校	佐渡市立金井中学校教諭 宗村 伸 佐渡市立南佐渡中学校長 中川 昌和
技術・ 家 庭	深い学びにいたる学び合う授業	5/25	新穂中学校	佐渡市立新穂中学校教諭 川原幾代子 佐渡市立新穂中学校長 小沼 泰高

		5/31	佐和田中学校	佐渡市立佐和田中学校教諭 佐渡特別支援学校教諭	濱西杏香里 中澤 民枝 様
英 語	「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」の実現を目指した授業改善 ～言語活動を通じた表現力の育成を図る実践研究～	7/13	両津中学校	佐渡市立両津中学校教諭 佐渡市教育委員会指導主事 佐渡市教育委員会教育指導主事	源田 洋平 小田 俊裕 様 村川健太郎 様
		10/11	南佐渡中学校	佐渡市立南佐渡中学校教諭 県立教育センター指導主事	高野 雅巳 下村 恵美 様
		10/13	相川中学校	佐渡市立相川中学校講師 佐渡市立相川中学校校長	齊藤 繁行 佐藤 元
道 徳	豊かな心をはぐくみ、生きる力を培う道徳教育の推進	8/20	Web メールによる3名の授業者 の指導案検討 及び全体指 導	佐渡市立真野中学校教諭 佐渡市立畑野中学校教諭 佐渡市立新穂中学校教諭 佐渡市立赤泊中学校校長	樋口 順子 池田 佳子 川原 雅史 本間 祐一
特 別 活 動	より良い人間関係を築き、自治的能力を高める特別活動 の推進	11/2	前浜中学校	佐渡市立前浜中学校教諭 新潟大学佐渡自然共生科学センター准教授 佐渡市立真野中学校校長	加藤 英司 豊田 光世 様 中川 久雄
生 徒 指 導	不登校対応等における関係機関と生徒指導部との連携 の推進	8/20	畑野農村環境 改善センター	ヒューマンキャンパス高校佐渡学習センター長 佐渡市立畑野中学校校長	高柳 一巳 様 雑賀 裕
進 路 指 導	地域の特性をふまえ、志をもち、自分の進路選択に向か って努力し続ける生徒の育成	8/20	新穂中学校	佐渡市立前浜中学校校長	伊藤 彰
総 合	探究的な地域学習を通して、自己の生き方を考えさせる 指導の工夫	11/9	金井中学校	佐渡総合教育センター所長 佐渡市立金井中学校校長 佐渡市教育委員会指導主事	加藤雄一郎 様 香遠 正浩 小田 俊裕 様
		11/16	新穂中学校		
学 校 保 健	不登校対応・メンタルヘルスについて	8/19	紙面研修	真野みずほ病院臨床心理士 佐渡市立南佐渡中学校校長	梅川 春樹 様 中川 昌和
事 務	○会員の資質・能力・意欲の向上を図り、学校経営の中 核的な役割を担う。 ○学校事務の研究を深め、学校教育の充実発展に寄 与する	9/8	佐渡総合教育 センター	佐渡市立七浦小学校教頭 佐渡市立新穂中学校校長	土屋 雅朗 様 小沼 泰高

(4) 研究成果の刊行「佐渡の中学校～研究集録（令和3年度）～」 A4版 64 ページ 100 部発行

3 成果と課題、次年度の取組（方向性）

<成果>

- ・コロナ禍の中、教科・領域ごとに研修方法を工夫し、研究主題や研修テーマに即した研修を進めることができた。
- ・研究推進を通して、学び合う授業や教師の学び合いが着実に浸透し、授業改善につながった。
- ・ほとんどの部会で「深い学びにいたる学び合い」を意識した研修を行い、成果と課題を共有することができた。

<課題>

- ・学び合いの質的改善を図り、学び合いを通して個々の学びが深まるような交流活動を工夫する。
- ・教師同士の「学び合い」を促進し協議会の質を上げるために、協議題を吟味するとともに、その協議題とリンクした授業参観の視点を明確にしておく。
- ・新学習指導要領の趣旨の実現を図るため、各教科・領域のどのような「見方・考え方」を働かせ深い学びを実現させるのかという視点から授業提案をしていく必要がある。

<次年度の取組（方向性）>

- ・『「見方・考え方」を働かせ「深い学びにいたる学び合う授業」』を研究テーマとし、各部会の授業者・発表者の実践を核としながら、部員相互の意見交流や資料共有等を活発に行って各自の授業力向上を図る。
- ・県中教研指定の発表会（総合的な学習：令和4年度、音楽：令和5年度）に向け、市中教研全体を挙げた運営・支援体制を築くことによって、その研究成果を各教科や各学校へ還元していく。
- ・「佐渡市教育大綱」や「佐渡市教育振興計画」の趣旨に基づき、その目標の達成に向けて、各部会の教育活動を着実に実践していく。特にキャリア教育は、総合の県中発表会や佐渡市教育委員会の協力・助言を基にさらなる充実を図り、佐渡の未来を担う人材の育成に当たる。